

## 医療機器プログラムに関するFAQ

|  |    |
|--|----|
| (New) ボーンナビ BSI(V2.2.0) FAQ .....            | 2  |
| (New) eZIS ニューロ (V1.1.1,V1.2.0) FAQ.....     | 23 |
| (New) 3DSRT ニューロ (V1.0.6) FAQ.....           | 31 |
| Amygo ニューロ (V1.0.0,V1.0.1) FAQ.....          | 34 |
| (New) AMYclz ニューロ (V1.0.0,V1.0.1) FAQ.....   | 37 |
| カーディオレポ (V1.2.0) FAQ .....                   | 41 |
| (New) smartMIBG ハート (V3.1.0,V3.1.1) FAQ..... | 43 |
| (New) LANC@T (V2.9.x.x) FAQ .....            | 51 |
| (New) 脆弱性に関する情報 .....                        | 57 |

# PDRファーマ株式会社

本件についてご不明な点は、担当 MR または製品情報センターまでお問い合わせください。  
(電話:0120-383-624 受付時間:9:00～17:00 (土曜・日曜・祝日・当社休業日を除く))

## (New) ボーンナビ BSI(V2.2.0) FAQ

- Q01 V2.2.0 へバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の ”エクスポート機能” を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。..... 3
- Q02 ボーンナビ BSI の解析中にマスクボタンを押下しても反応しない。..... 5
- Q03 前バージョン(V2.1.7)のセッションファイルが読み込めない。..... 6
- Q04 V2.1.7 と V2.2.0 のレポートレイアウトの変更について詳細を知りたい。..... 7
- Q05 レポート内の「BSI(%)」の文字が切れてしまう。..... 12
- Q06 ボーンナビ BSI をバージョンアップしたところ、「Bone session file load operation failed.」と表示され解析できない。..... 13
- Q07 ボーンナビ BSI 解析後に「An error occurred while saving SC DICOM」が発生しレポートが保存できない。..... 14
- Q08 レポートの患者名の DICOM ヘッダ情報が文字化けする。..... 17
- Q09 3 検出器ガンマカメラ GCA-9300R の骨シンチ画像は解析できますか。..... 19
- Q10 (new)セッションファイルに ROI 情報が含まれている場合、最新の検査データに ROI が設定されていないとレポートが保存されない。..... 20

Q01 V2.2.0 へバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の ”エクスポート機能” を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。

A.01

DICOM データの患者名に「^」が使用されている場合(例 “MYOUJI^NAMEE”)、レポートを LANC@T からエクスポートし共有フォルダ経由でインポートできない処理機があります。この現象は、「^」記号が「空白」に変換され保存フォルダ/ファイル名に「空白」が入るためです ([本資料の「LANC@T FAQ」](#)と同じ現象についての説明です)。

**方法1-3のいずれかで対応をお願いします。**

方法1) LANC@T のエクスポートルールを使用する場合、フォルダ名/ファイル名には \$ptid\$ 等の空白のない情報を使用してください。

エクスポート設定

エクスポート設定

エクスポート時に匿名化する 項目設定

ログファイルを作成する

デフォルトのエクスポート先

D:\temp\export ...

エクスポートルールを使用する

フォルダ

ファイル名

\$ptid\$

命名ルール (下記の情報が使用できます)

|                   |                  |
|-------------------|------------------|
| PatientsName      | : \$ptname\$     |
| PatientsID        | : \$ptid\$       |
| PatientsSex       | : \$ptsex\$      |
| PatientsAge       | : \$ptage\$      |
| StudyDescription  | : \$studydesc\$  |
| StudyDate         | : \$studydate\$  |
| StudyTime         | : \$studytime\$  |
| SeriesDescription | : \$seriesdesc\$ |
| SeriesDate        | : \$seriesdate\$ |
| SeriesTime        | : \$seriestime\$ |
| Modality          | : \$modality\$   |

OK キャンセル

方法2) エクスポート時もしくはエクスポート後に、保存フォルダ名/ファイル名から空白を削除して下さい。

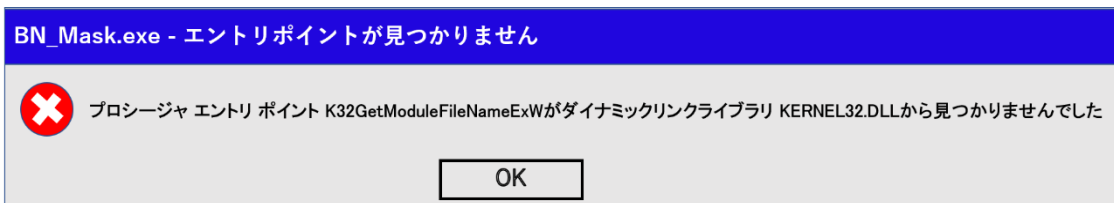
方法3) 共有フォルダを介さず直接送信する方法(DICOM 通信)をご検討ください。

※この現象に対応するため、空白をアンダーバー「\_」に変換する機能を追加した対応版 LANC@T をご用意しております。当社担当 MR までお問い合わせください。

Q02 ボーンナビ BSI の解析中にマスクボタンを押下しても反応しない。

A.02

- Windows の OS と LANC@T のバージョンをそれぞれご確認ください。
- LANC@T のバージョンが V2.9.1.0 以上である必要がありますので、LANC@T のバージョンをご確認ください。
- V2.2.0 の動作保証 OS は Windows 10 と 11 です。それ以下の OS で動作する場合がありますが、Windows VISTA、XP では新しいマスク処理に対応しておらず、以下のエラーメッセージが表示され動作しません。ご了承ください。



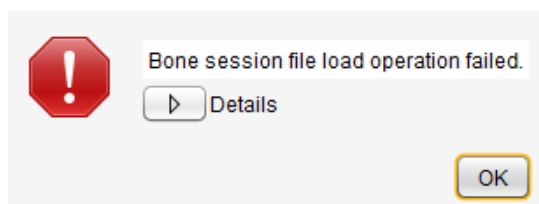
Q03 前バージョン(V2.1.7)のセッションファイルが読み込めない。  
(セッションファイルとは、「解析中のコメント」、「ホットスポットのリスク(赤/青 判定)」等の情報が保存されたファイルです。)

A.03

方法1-2のいずれかで対応をお願いします。

方法1) V2.1.7 と V2.2.0 ではセッションファイルの構造が異なるため、互換性がございません。今までのセッション情報を活用する場合は V2.1.7 を引き続きご利用ください。

下図のエラーメッセージについては OK ボタンを押す事で、セッション情報がないものとして解析されます。



方法2) V2.1.7 のセッションファイルを引き続きご利用される場合はお手数ですが、過去データのレポートを参考に V2.2.0 で解析し、改めてセッションファイルを保存してください。

V2.2.0 をインストールする前に、V2.1.7 をアンインストールして頂く必要がありますが、アンインストール後に一部のフォルダ/ファイルが残ってしまいますので、以下の”BONENAVI\_BSI”フォルダを削除してからインストールしてください。

(既定のインストール先: C:¥FRI¥LANC@Tprog¥BONENAVI\_BSI)

なお、V2.1.7 に戻して使用する場合を考え、上記の BONENAVI\_BSI フォルダ内にある”\_session”フォルダは、削除する前にバックアップ(コピー)頂くことをお勧め致します。

[なお、本資料の p13 にも関連情報を記載しています。](#)

Q04 V2.1.7 と V2.2.0 のレポートレイアウトの変更について詳細を知りたい。

A.04

バージョンアップに伴い、下記の通りレポートのレイアウトを変更しております。ご了承ください。

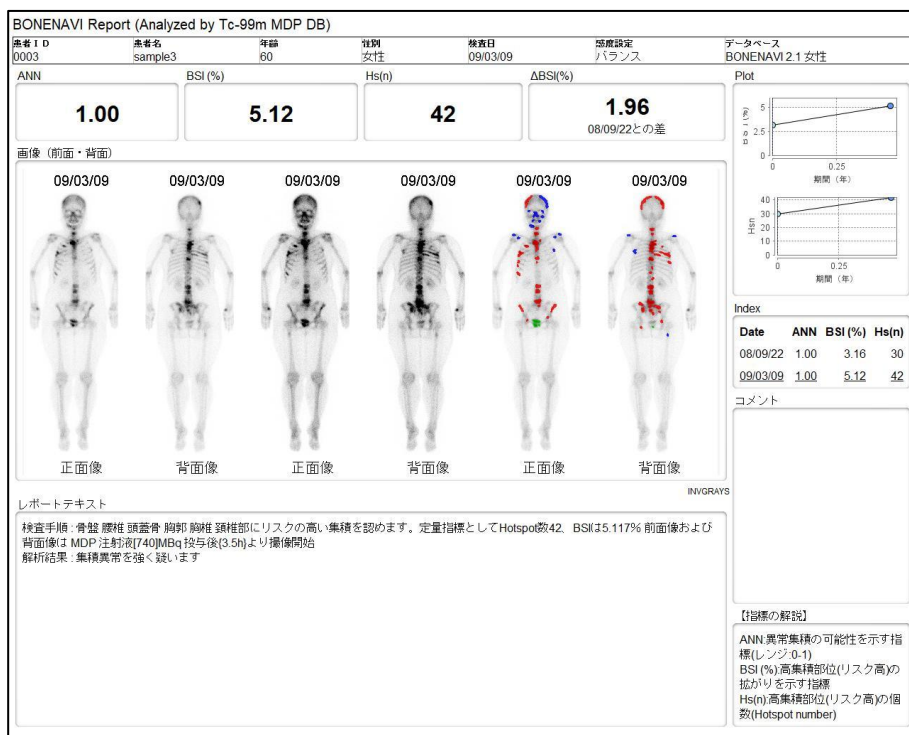
全レポート共通

画像右下に使用しているカラーマップ名を表示しました (図 1)。

Summary レポート (図 1)

CADx レポートの名称を Summary レポートに変更しました。

△BSI を追加し、レポートテキストを画像下部に移動しました。複数解析時は、例数によりコメント欄が小さくなる場合があります。また、BSI と Hsn のグラフは 1 例(検査)でも常に表示するように変更しました。



(図 1)

① Images-レポート

- V2.1.7 は複数例解析時の出力レポートは正面像/背面像それぞれ 1 枚でしたが、V2.2.0 では 6 例以上の場合、画像を出来るだけ大きく表示/印刷されるようにそれぞれ 2 枚で出力されるように、仕様を変更しました。

- 5例までは、V2.1.7とV2.2.0で変更はありません。(図2)
- 6例以上の場合、画像が小さくなってしまったため、次ページ図3のように2枚に分割しました。

(5例の場合) V2.1.7とV2.2.0で変更はありません。

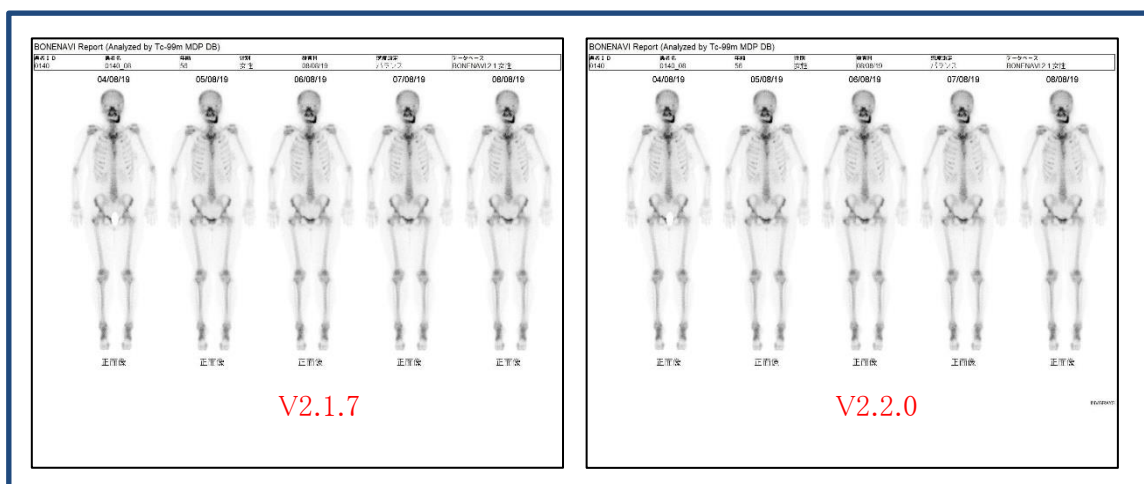


図2 (例として正面像のみのレポート)



➤(6例以上の場合)

全身画像を出来るだけ大きく表示する為、6例では(1枚目、2枚目)が(3画像, 3画像)に2分割されます。7例以上では 7例 (4, 3)、8例 (4, 4)、9例 (5, 4)、10例 (5, 5) となります。

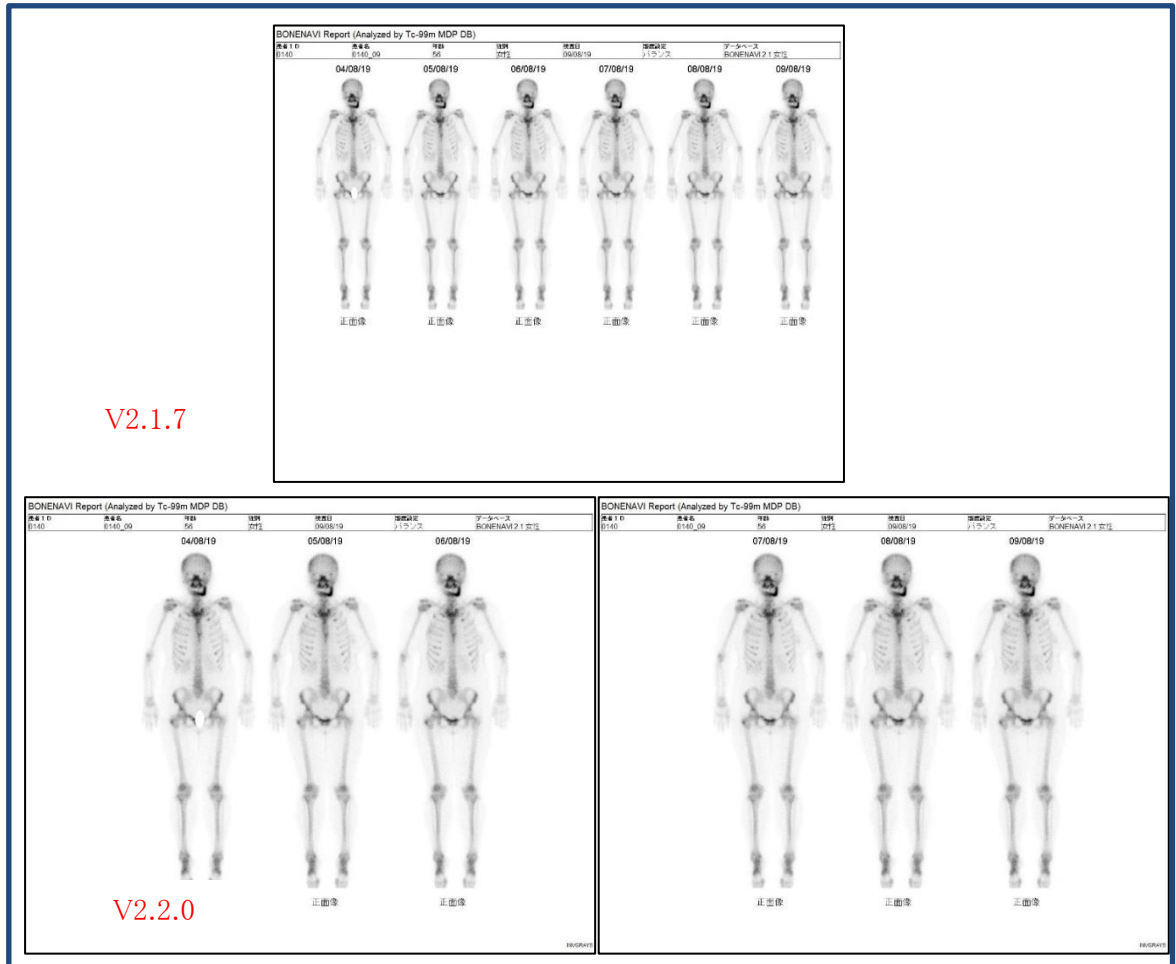
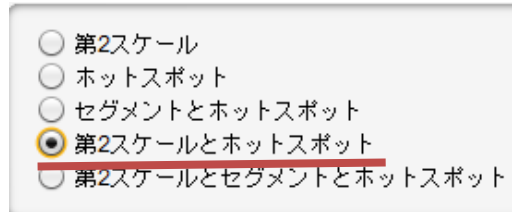


図3 (例として正面像のみのレポート)

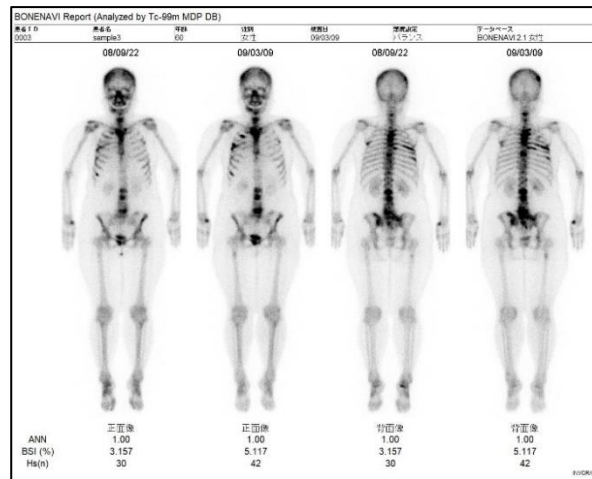
② Images-Info レポート

- レイヤー「第2スケールとホットスポット」を選択した場合 (V2.2.0 で新規追加レイヤー、図4)、「第2スケール」のレポートと「ホットスポット」のレポートが作成されます (図5)。

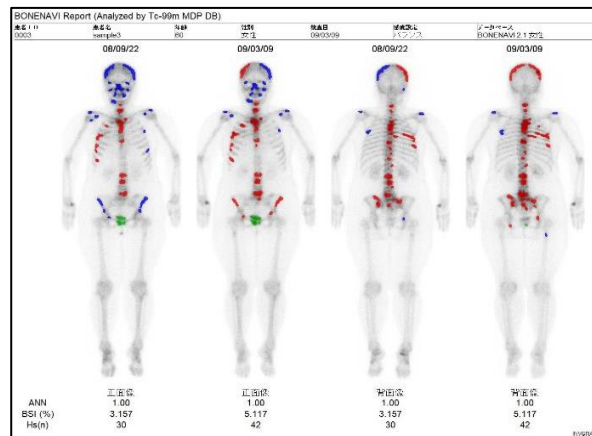


(図4)

(2例の場合)



第2スケール



ホットスポット

(図5)

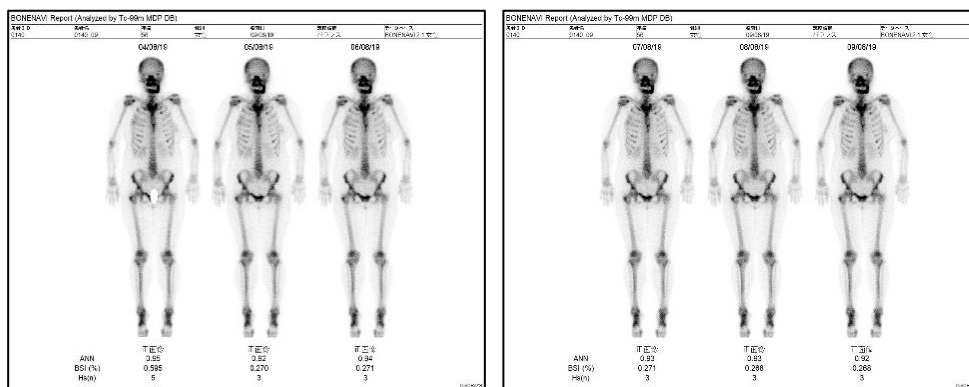
レイヤー「第2スケールとセグメントとホットスポット」を選択した場合(V2.2.0で新規追加レイヤー、図6)も同様に、「第2スケール」のレポートと「セグメントとホットスポット」のレポートが作成されます。

- 第2スケール
- ホットスポット
- セグメントとホットスポット
- 第2スケールとホットスポット
- 第2スケールとセグメントとホットスポット

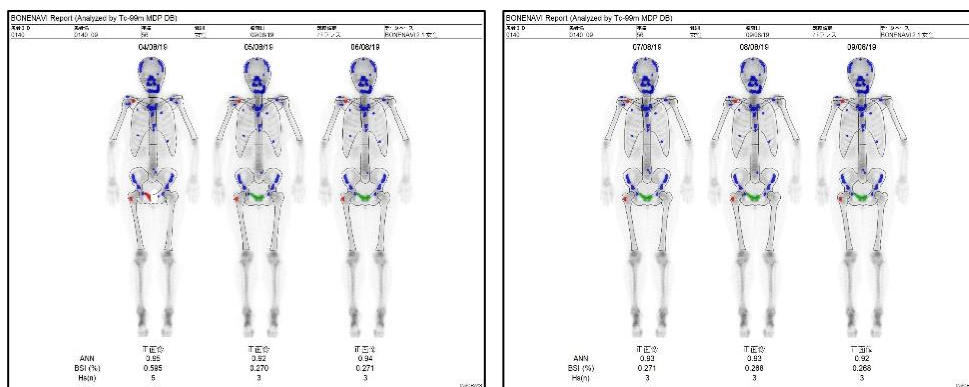
(図6)

「Images-Info レポート」でも、6例以上の場合、③「Images レポート」と同様に2枚に分割されます。6例以上では、「第2スケール」で4枚のレポート(正面像2枚、背面像2枚)、「ホットスポット(または、セグメントとホットスポット)」で4枚のレポート(正面像2枚、背面像2枚)が作成されます(図7)。

(6例の場合:正面像の表示)



第2スケール



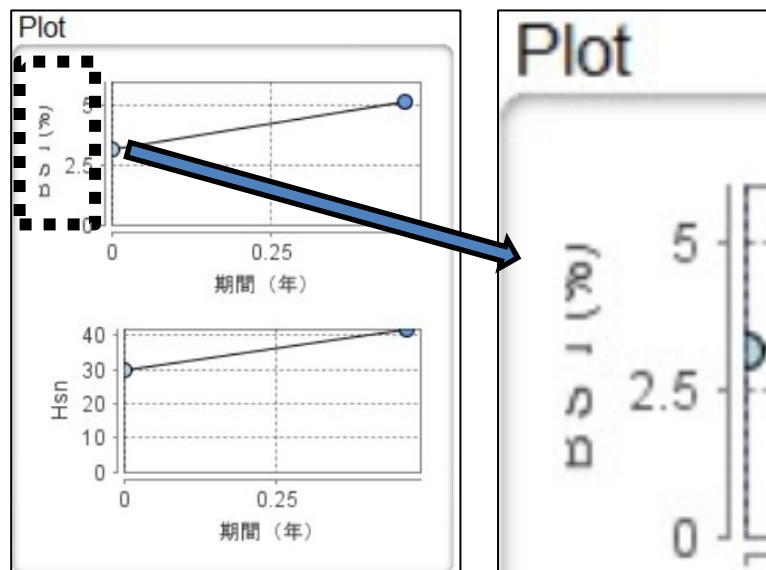
セグメントとホット

(図7)

Q05 レポート内の「BSI(%)」の文字が切れてしまう。

A.05

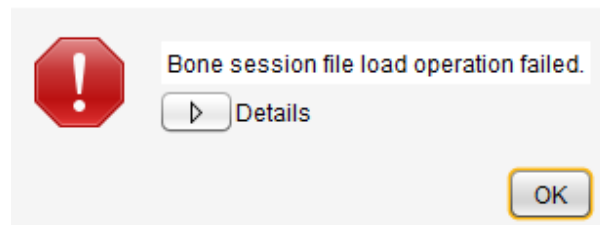
BSI のグラフについて、縦軸の値によって文字が切れてしまうケースがあります。ご迷惑をお掛けいたしますがご了承ください。



Q06 ボーンナビ BSI をバージョンアップしたところ、「Bone session file load operation failed.」と表示され解析できない。

A.06

旧バージョンのセッションファイルがフォルダ内に残っていると本エラーが表示されます。



また、上記のエラーメッセージダイアログの OK ボタンを押して先に進んだ場合セッション情報がないものとして解析された結果が出力されます。

旧バージョンのセッションファイルは、新しいバージョンのプログラムでは対応していません。削除してください([本資料の p6 に関連情報を記載しています](#))。

(既定のインストール先 : C:\FRI\LANC@Tprog\BONENAVI\_BSI\session)

なお、V2.1.7 に戻して使用する場合を考え、BONENAVI\_BSI フォルダ内にあるセッションフォルダは、削除する前にバックアップ(コピー)頂くことをお勧め致します。

(既定のインストール先 : C:\FRI\LANC@Tprog\BONENAVI\_BSI)

Q07 ボーンナビ BSI 解析後に「An error occurred while saving SC DICOM」が発生しレポートが保存できない。

A.07

入力データに病院名がセットされておらず、レジストリにセットされている病院名に「かな漢字」が使用されている場合にエラーが発生します。

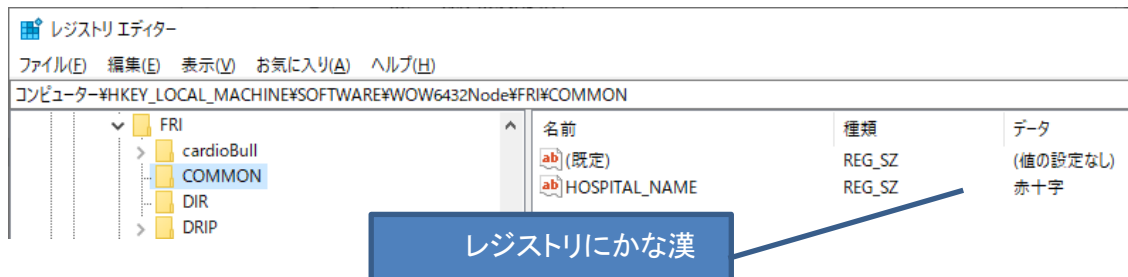
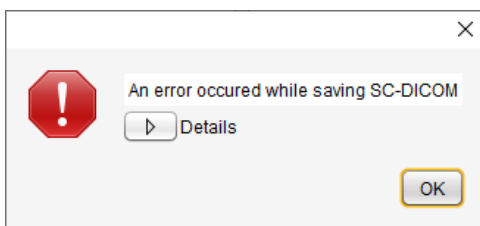


図 2: PDR ソフトのレジストリ情報

(※) PDR 製プログラムの病院名が保存されている場所(HOSPITAL\_NAME)のレジストリ画面



特定の文字コードでエラーが発生します。以下の漢字等で使用した場合、発生が確認されています。

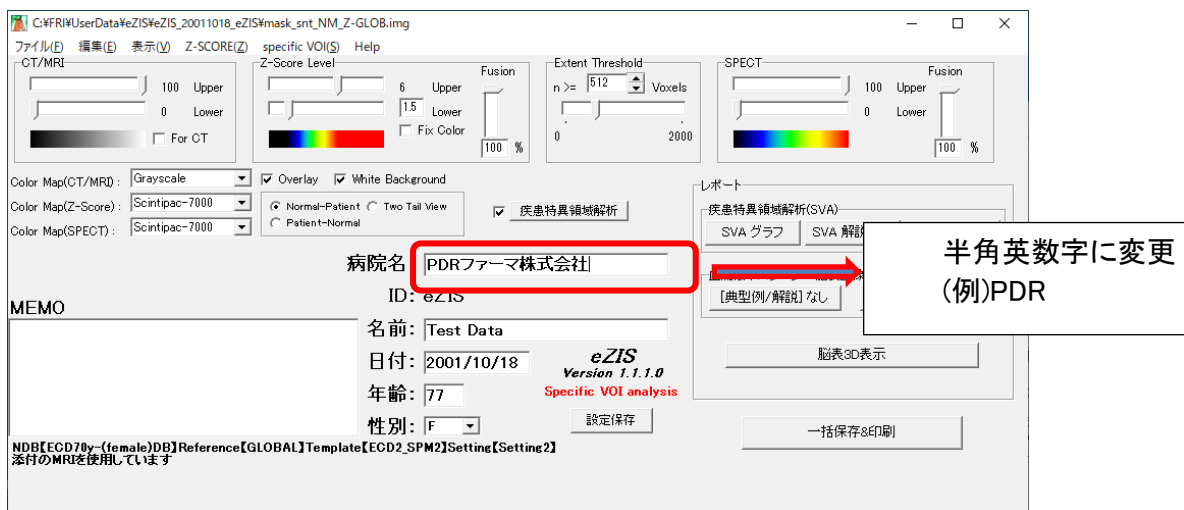
例:「十」、「圭」、「申」、「貼」、「能」、「表」、「予」、「禄」

以下の方法1で対応可能です。

方法1が利用できない場合は、方法2のでも変更可能です。

方法1) eZIS ニューロや smartMIBG ハート等、他の PDR 製認証プログラム上で病院名を半角英数字に変更してください(下図の赤枠内を半角英数字に変更し設定保存してください)。

### eZIS ニューロのビューワ画面



### smartMIBG ハートの設定画面



- ※1 当社のプログラムでは、この病院名の設定内容を共通で使用しています。変更した内容は、他のプログラムでも反映されますので、ご注意ください。
- ※2 また、病院名を設定・変更できるプログラムには、脳画像解析「eZIS ニューロ、3DSRT ニューロ、Amygo ニューロ」、心臓解析「smartMIBG ハート」があります。

方法2) レジストリエディタで病院名を半角英数字に変更してください。

C:\Windows\regedit.exe をダブルクリックしてレジストリエディタを起動します。

(64bit PC の場合)

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\FRI\COMMON を

(32bit PC の場合)

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\FRI\COMMON フォルダを開きます。

HOSPITAL\_NAME の項目をダブルクリックし、値のデータを半角英数字に変更し OK ボタンを押して下さい。

ご不明な場合は当社担当 MR までお問い合わせください。

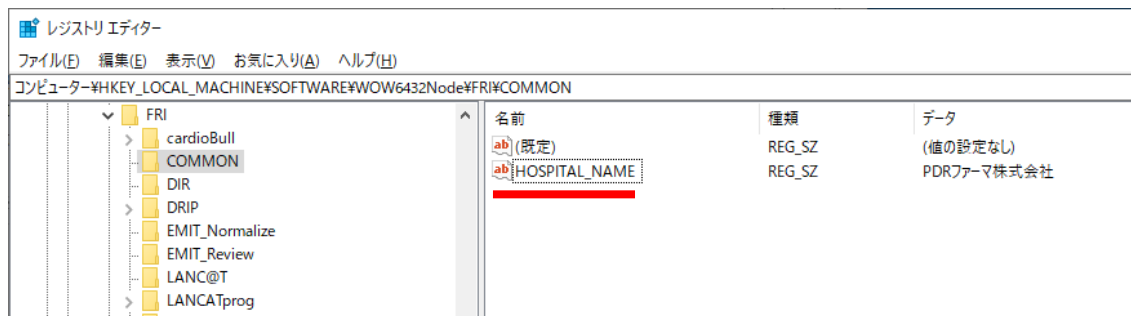
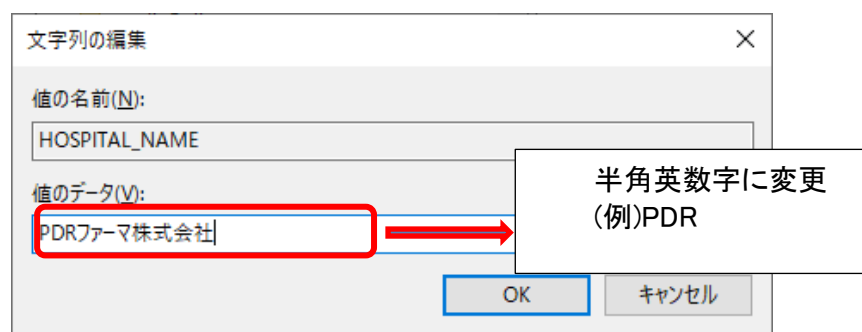


図 6:レジストリエディタ





Q08 レポートの患者名の DICOM ヘッダ情報が文字化けする。

A.08

患者名に「かな漢字」が入っている為に文字化けが起きています。

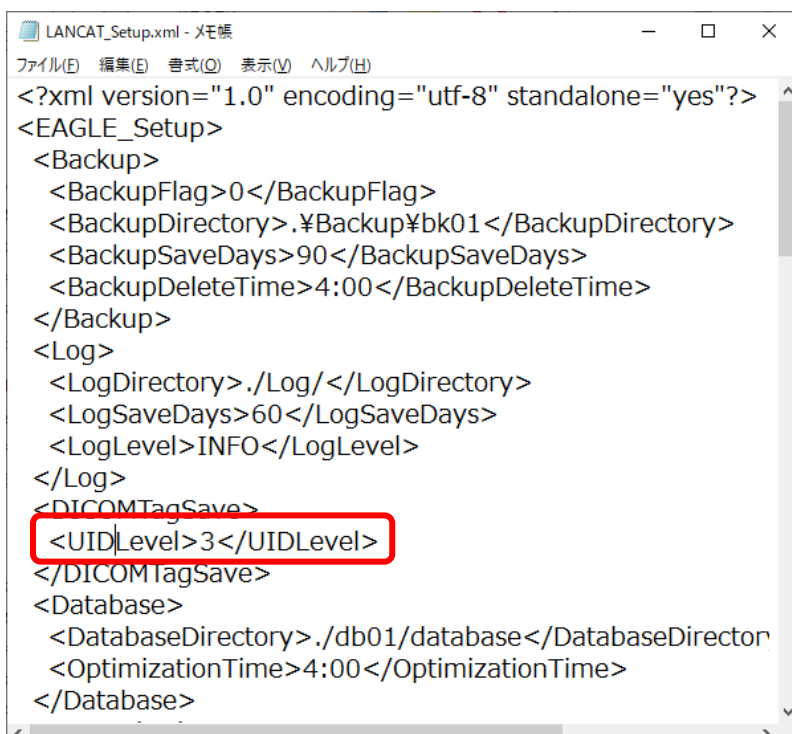
解析前に LANC@T の Edit 機能で患者名を次ページ(患者名の編集)の手順に従って文字化け部分を削除してください。

なお、初めて患者名を編集する前に、一度だけ LANC@T の設定を変更する必要があります。以下の(前処理)の手順を実施してください。

(前処理)

注意:LANC@T を終了した状態で行ってください。

LANC@T のインストール先フォルダ(既定のインストール先:C:\FRI\LANC@T)を開き、LANCAT\_Setup.xmlをメモ帳等で開きます。



```
LANCAT_Setup.xml - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="yes"?>
<EAGLE_Setup>
  <Backup>
    <BackupFlag>0</BackupFlag>
    <BackupDirectory>.\Backup\bk01</BackupDirectory>
    <BackupSaveDays>90</BackupSaveDays>
    <BackupDeleteTime>4:00</BackupDeleteTime>
  </Backup>
  <Log>
    <LogDirectory>./Log/</LogDirectory>
    <LogSaveDays>60</LogSaveDays>
    <LogLevel>INFO</LogLevel>
  </Log>
  <DICOMTagSave>
    <UIDLevel>3</UIDLevel>
  </DICOMTagSave>
  <Database>
    <DatabaseDirectory>./db01/database</DatabaseDirector
    <OptimizationTime>4:00</OptimizationTime>
  </Database>
```

15 行目にある<UIDLevel>1</UIDLevel>の 1 を 3 に書き換え、上書き保存します。

※UID レベルを1から3に変更する事で名前を変更しても同じ UID で保存されます。

(患者名の編集)

LANC@T 上で該当データを選択し、Edit ボタンを押し下図のように、患者名の「かな漢字部分」を削除して Save してください。

| ID         | Name         | Age | Sex | odali | Study         | Series     | Date       | Time     | ImageID       |
|------------|--------------|-----|-----|-------|---------------|------------|------------|----------|---------------|
| 04608615   | SEI'MEI=姓~名= |     | M   | NM    | Whole Body Bo | BONENAVI   | 2022/08/23 | 09:55:30 | [Summary]     |
| 04608615   | SEI'MEI=姓~名= |     | M   | NM    | Whole Body Bo | BONENAVI   | 2022/08/23 | 09:55:30 | [Info_AntPos] |
| 1 04608615 | SEI'MEI=姓~名= |     | M   | NM    | Whole Body Bo | WHOLE BODY | 2011/05/18 | 14:26:38 | WHOLE BODY    |

Frame: 1 / 2, Max: 971, Min: 0, Rainbow

11856 / 120026 MB (Cドライブ)

Edit

※Edit 機能 LANC@T のヘッダ情報欄はかな漢字が文字化けされ表示されない

|             |                               |               |
|-------------|-------------------------------|---------------|
| [0008,1070] | OperatorsName                 |               |
| [0008,1080] | AdmittingDiagnosesDescription |               |
| [0010,0010] | PatientsName ※                | SEI'MEI= 姓~名= |
| [0010,0020] | PatientsID ※                  | 04608615      |
| [0010,0030] | BirthDate ※                   | 19310117      |

|             |                               |          |
|-------------|-------------------------------|----------|
| [0008,1070] | OperatorsName                 |          |
| [0008,1080] | AdmittingDiagnosesDescription |          |
| [0010,0010] | PatientsName ※                | SEI'MEI  |
| [0010,0020] | PatientsID ※                  | 04608615 |
| [0010,0030] | BirthDate ※                   | 19310117 |

※不要部分の削除最初の「=」より後ろを削除して Save してください。

Q09 3 検出器ガンマカメラ GCA-9300R の骨シンチ画像は解析できますか。  
(GCA-9300R: キヤノンメディカルシステムズ(株)製の3検出器ガンマカメラ)

A.09

“GCA-9300R”から出力された画像データは、以下に記載する手順で LANC@T に取り込み、BONENAVI (V2.2.0)で解析することができます。

なお、データ収集の際は、前面像 (ANT) と後面像 (POST) を別々に撮像してください。

ケース1) ” GCA-9300R v2.2 以降” の場合

- ① 標準搭載されている「検出器分離」というアプリケーションを使用してデータを出力してください。
- ② 上記方法で出力したデータを、[WB\_LANC@T.exe] を介して LANC@T へ取り込み、BONENAVI で解析してください (BONENAVI 取扱説明書 p12 「4.1 データを取り込む」参照)。

ケース2) 「検出器分離」アプリケーション未対応の場合

BONENAVI で設定を変更して頂くことで、解析が可能になります。設定に関する詳細な説明書をご用意しています。当社担当 MR までお問い合わせください。

なお、キヤノンメディカルシステムズ(株)様より、バージョンアップキットがオプションで用意され、このオプションを追加することで「検出器分離」アプリケーションに対応可能のようです。詳細はキヤノンメディカルシステムズ(株)様にお問い合わせください。

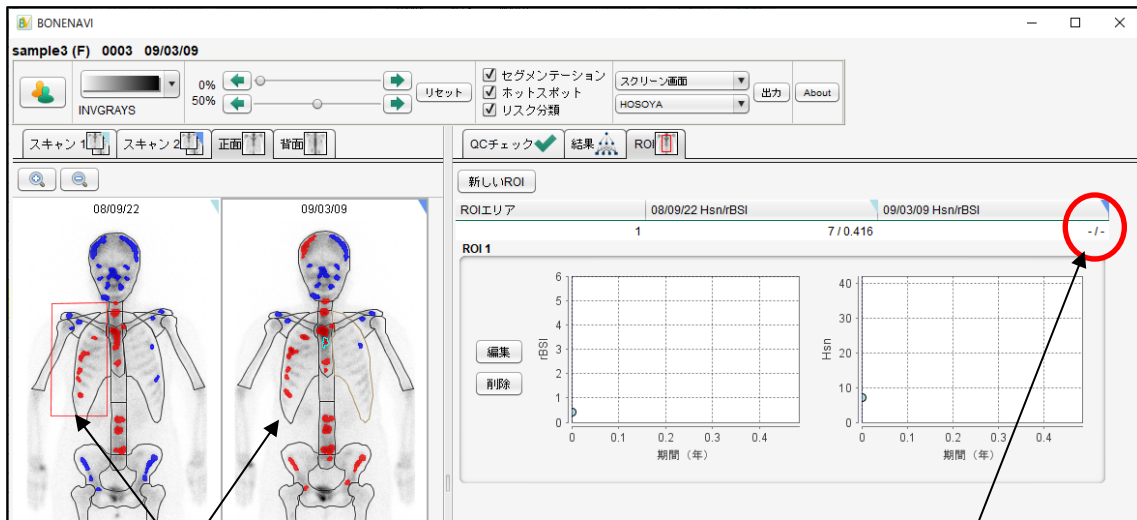
Q10 (new)セッションファイルに ROI 情報が含まれている場合、最新の検査データに ROI が設定されていないとレポートが保存されない。

A.10

【現象】

最新の検査データに ROI が設定されていないためです。

(過去データに ROI が設定されているが、最新データに ROI が設定されてない。)



過去データに ROI が設定されているが最新データに ROI が設定されていない

最新データの ROI 情報が「-/-」になっている

※v2.1.7 では、エラー画面が表示されレポートタブが表示できません。

【対策】

以下のいずれかの対応を行うことで、レポートを保存できます

(ア) セッションファイルによって読み込まれた ROI 情報を削除(図 1)し、新たに ROI を設定(図 2)する。

図 1:

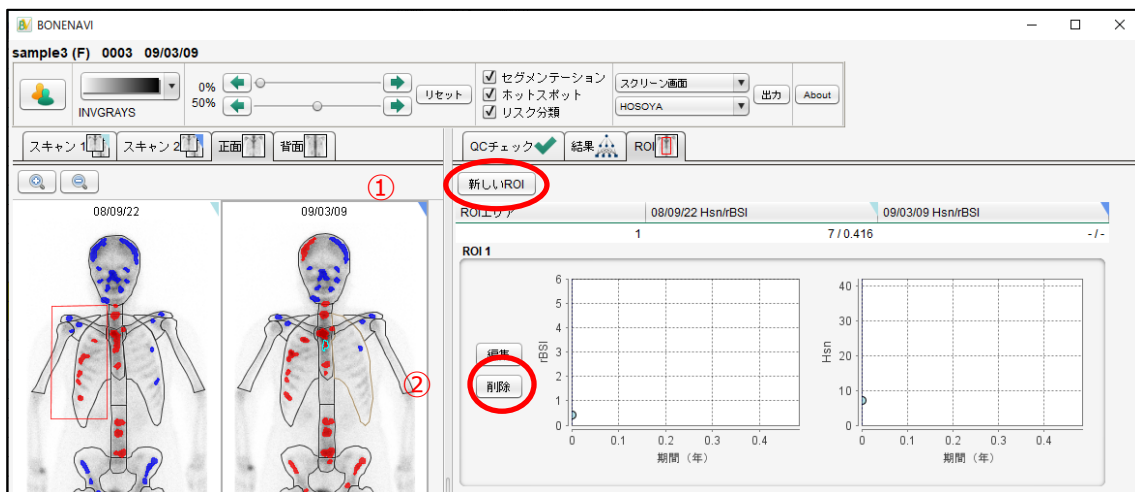
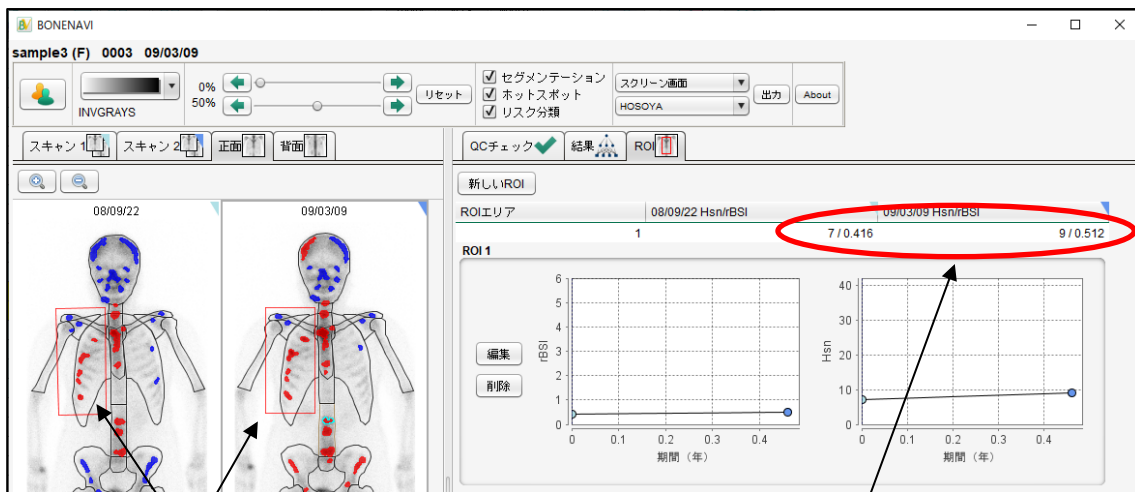


図 2:



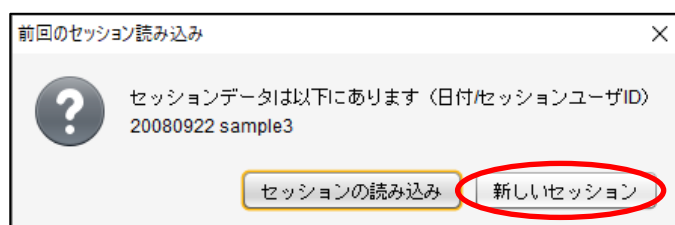
どちらにも ROI が設定されている

どちらにも値が入っている

(イ) セッションファイルを読み込まずに、新しいセッションで解析する。(解析時に図3が表示されるので「新しいセッション」ボタンを押してください。)

※過去データのリスク分類を変更している場合は、変更点が反映されないことになるので注意が必要です。可能な限り上記(ア)での対応をお願い致します。

図 3:



## (New) eZIS ニュー□ (V1.1.1,V1.2.0) FAQ

- Q11 eZIS ニュー□(v1.1.1)においてレポートを印刷すると一部画像が消えて印刷される事がある。.....24
- Q12 eZIS ニュー□(v1.2.0)の Invert モードで解析後に SVA や Guideline レポートが選択できる状態になっており不正確なレポートが表示されてしまう。.....25
- Q.13 eZIS\_viewer(v1.2.0)で Guideline レポート・スタンダード VOI レポートを印刷すると、A4 縦の用紙に、横表示で右半分が切れて印刷される。.....27
- Q.14 (New) eZIS\_viewer(v1.2.0)で Guideline レポート・スタンダード VOI レポートを印刷すると、A4 縦の用紙に、横表示で右半分が切れて印刷される。.....28
- Q15 (New) eZIS\_viewer(v1.2.0)で report1 だけ印刷しても report2 も印刷される。.....30

Q11 eZIS ニューロ(v1.1.1)においてレポートを印刷すると一部画像が消えて印刷される事がある。

(PC上では正常に表示されている。印刷時のみの現象)

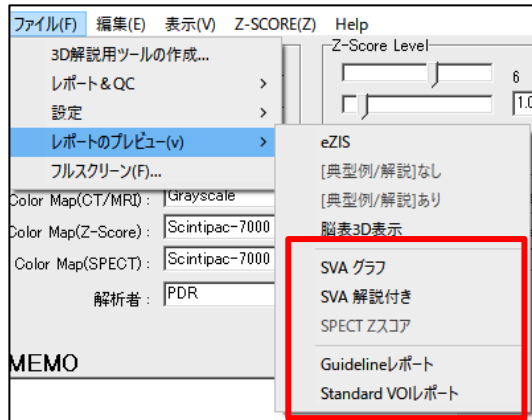
A11

レポートを直接印刷する時の不具合です。JPEG等で保存したレポートを印刷することで、対応可能です。

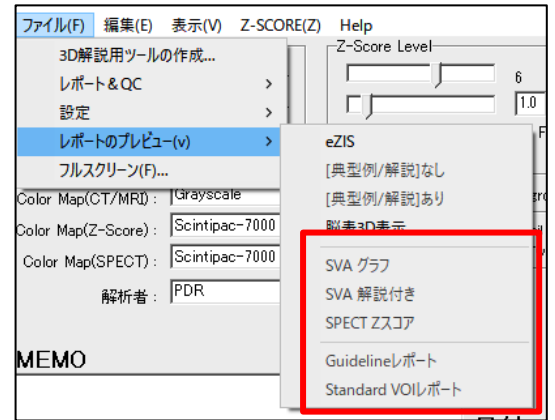


Q12 eZIS ニューロ (v1.2.0) の Invert モードで解析後に SVA や Guideline レポートが選択できる状態になっており不正確なレポートが表示されてしまう。

【現象】 eZIS ニューロ (v1.2.0)において Invert モードで解析後に、本来は SVA や Guideline レポート等のプレビューが表示できないところ、メニューがアクティブ状態になり不適切な結果が表示されてしまいます (図 1)(図 4)。一度プレビューを表示すると、メニューがグレーアウトして再度の表示ができなくなり正常の状態に戻ります (図 2)。なお、本現象について ezis\_viewer.exe を単独で起動した場合は、本来の仕様通り、プレビューメニューは非アクティブとなります (図 2)。

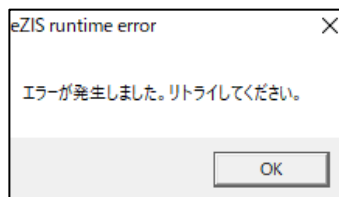


(図 1 問題の現象)

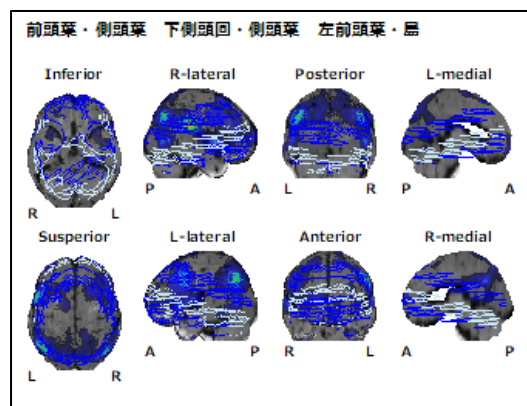


(図 2 Invert モード時の正常のプレビューメニュー)

解析直後に図 1 の赤枠内メニューを選択した場合 “エラーが発生しました。リトライして下さい。”, と表示されます (図3)。“OK”をクリックするとレポート上に不適切な SVA の VOI が表示されます (図4)。



(図 3 エラー表示)

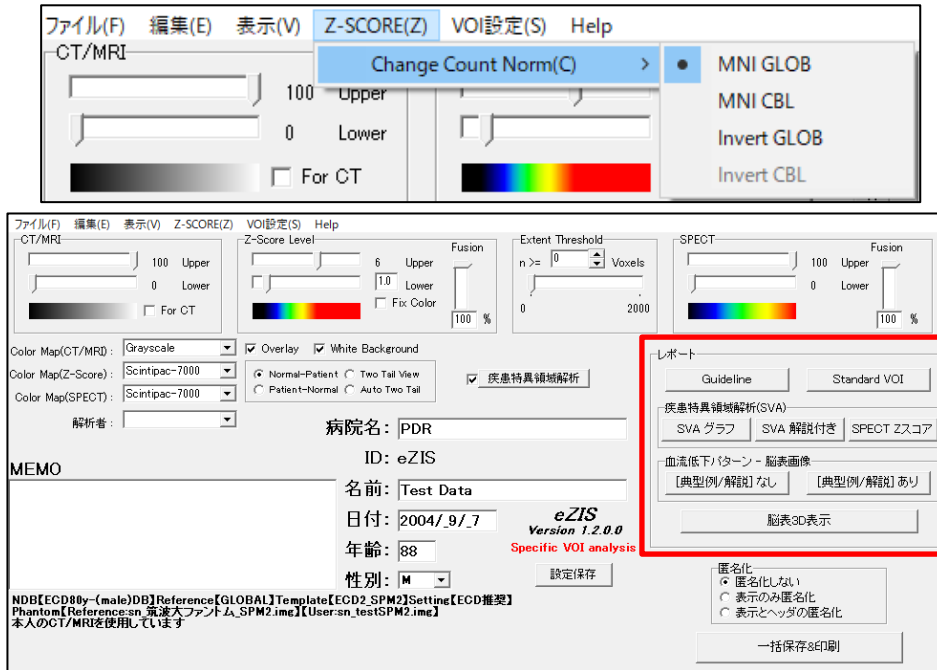


(図 4 不適切な SVA-VOI)

A.12

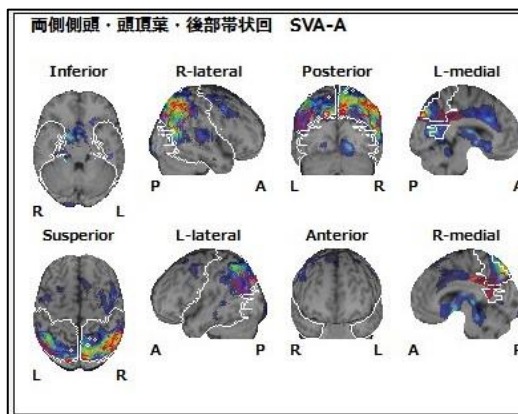
Invert 解析を行った場合、メニューからの SVA や Guideline レポート等の VOI を使用したレポートのプレビューは選択しないようにお願いします。

SVA レポートを表示する場合、Z-SCORE→Change Count Norm メニューから【MNI GLOB】を選択してからレポートのプレビューをしてください(図 5)。



(図5 コントロールパネル)

赤枠内(図 5)のレポートが選択可能になり、SVA の VOI も正しく表示されます。(図 6)



(図 6 正しい SVA-VOI)

Q.13 eZIS\_viewer(v1.2.0)で Guideline レポート・スタンダード VOI レポートを印刷すると、  
A4 縦の用紙に、横表示で右半分が切れて印刷される。

(プリンターの設定で印刷の向きを縦・横で切り替えても、印刷向きは縦に固定される。)

A.13

レポートを直接印刷する時の不具合です。JPEG 等で保存したレポートを印刷することで対応可能です。

Q.14 (New) eZIS\_viewer(v1.2.0)で Guideline レポート・スタンダード VOI レポートを印刷すると、A4 縦の用紙に、横表示で右半分が切れて印刷される。

A14

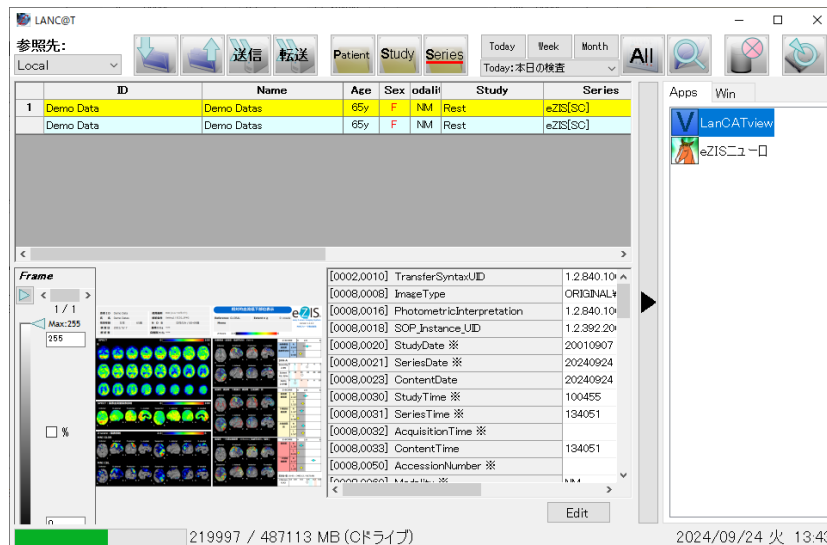
DICOM-SC や JPEG 等で保存したレポートを印刷することで対応可能です。

DICOM-SC を印刷する場合

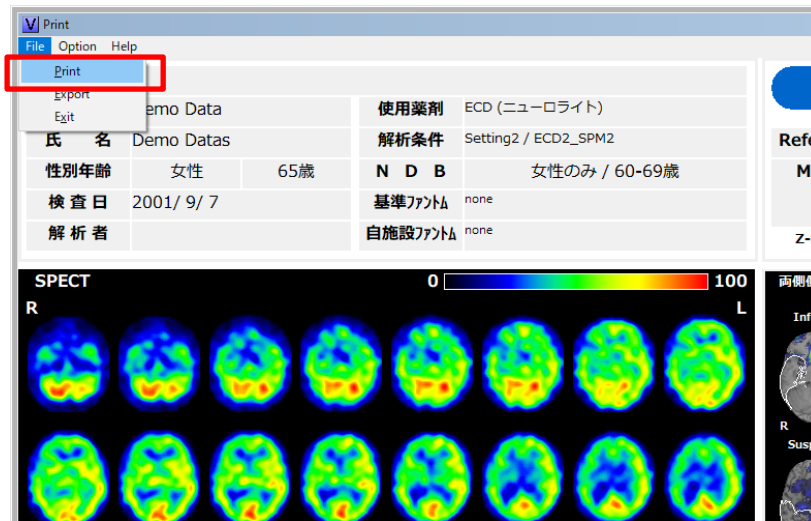
ファイル → レポート&QC → LANC@T に保存で、レポートを LANC@T に保存する。



1. LANC@T に保存されたレポートを選択して、LanCATview を起動する。

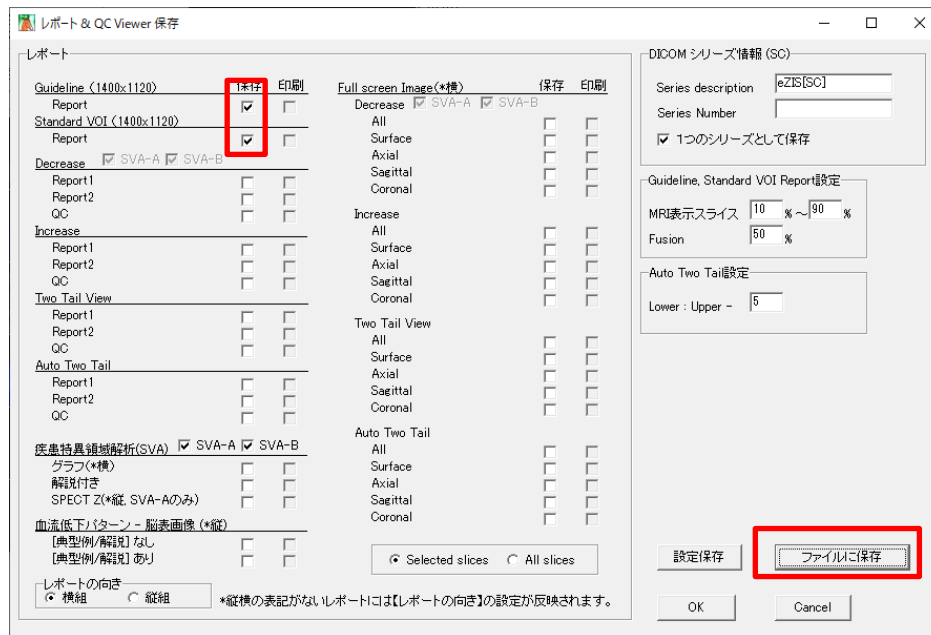


2. File → Print で印刷する。



JPEG 等を印刷する場合

1. ファイル → レポート&QC → ファイルに保存で、レポートをファイル(JPEG 等)として保存する。



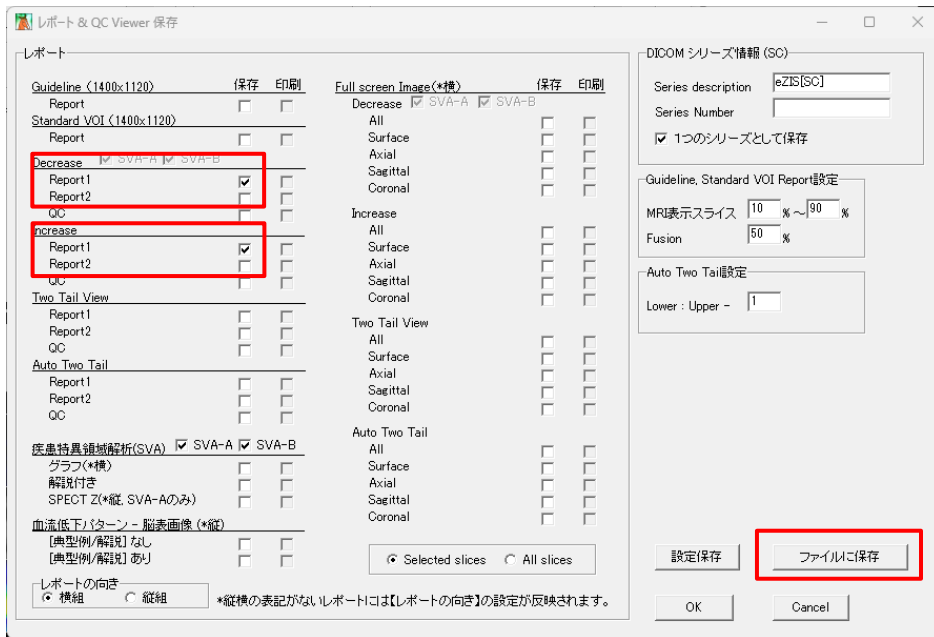
2. 保存したレポート(JPEG 等)をダブルクリックして表示し、Windows の機能で表示し、印刷する。

Q15 (New) eZIS\_viewer(v1.2.0) で report1 だけ印刷しても report2 も印刷される。

A15

1 枚目のレポートのみを DICOM-SC や JPEG 等で保存してレポートを印刷してください。

1. ファイル → レポート&QC → ファイルに保存で、レポートをファイル (JPEG 等) として保存する。



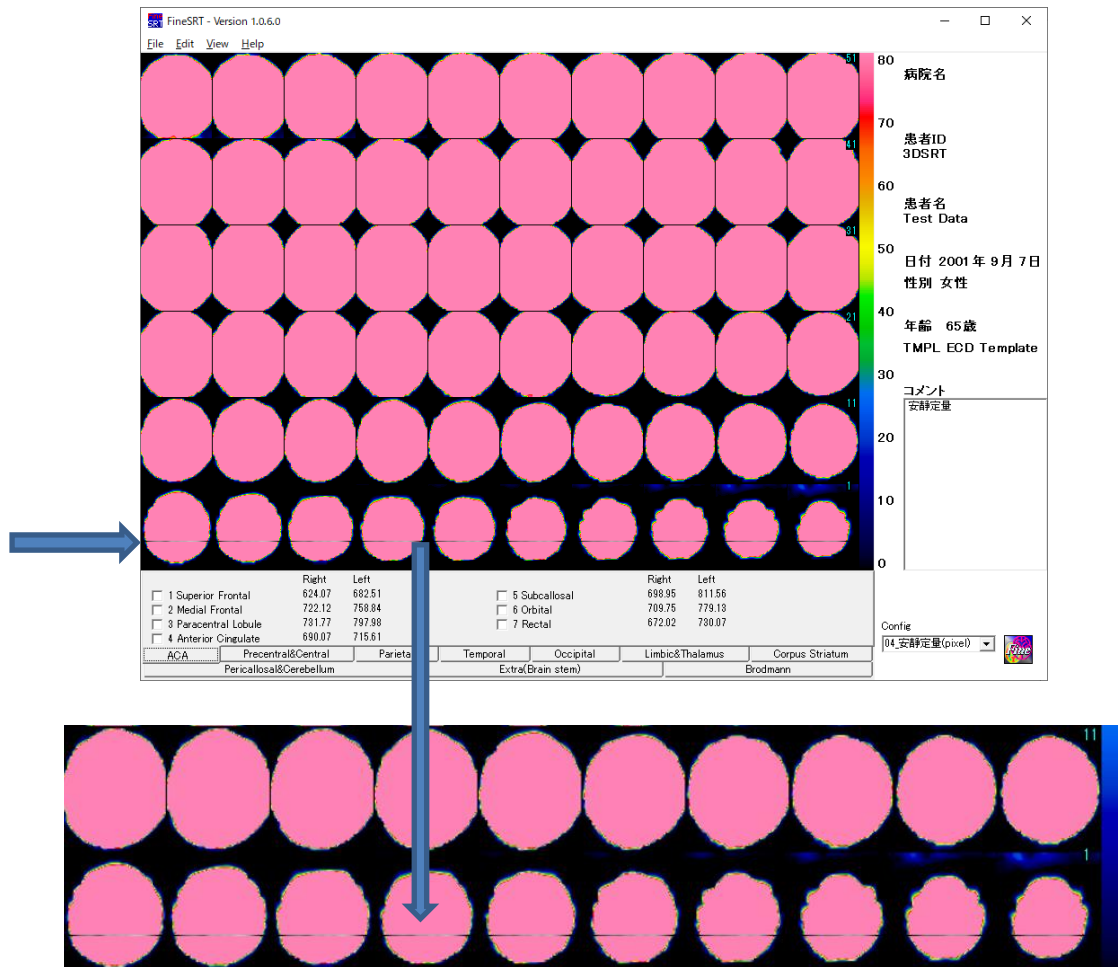
2. 保存したレポート (JPEG 等) をダブルクリックして表示し、Windows の機能で表示し、印刷する。

## **(New)** 3DSRT ニューロ (V1.0.6) FAQ

- Q16 FineSRT の結果画面にスジ状の線が表示されることがある。.....32
- Q17 **(New)** 3DSRTview において、Overlay プルダウンメニューから ROI の太さを変更する事が出来ない。.....33

Q16 FineSRT の結果画面にスジ状の線が表示されることがある。

(下図参照)



A16

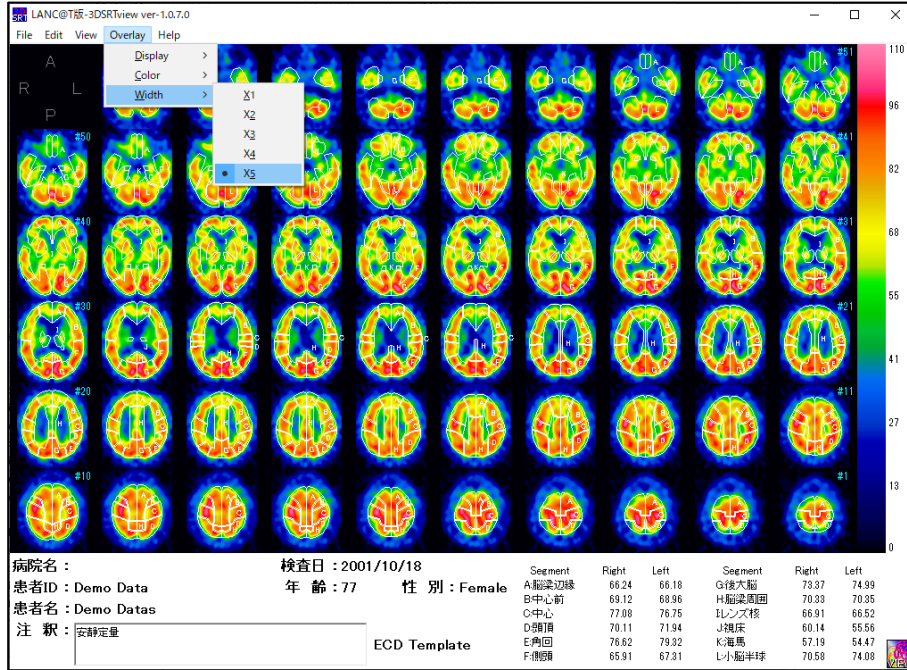
V1.0.6 の不具合になります。最新の V1.0.7 で対応済みですのでバージョンアップをお願い致します。当社担当 MR までお問い合わせください。



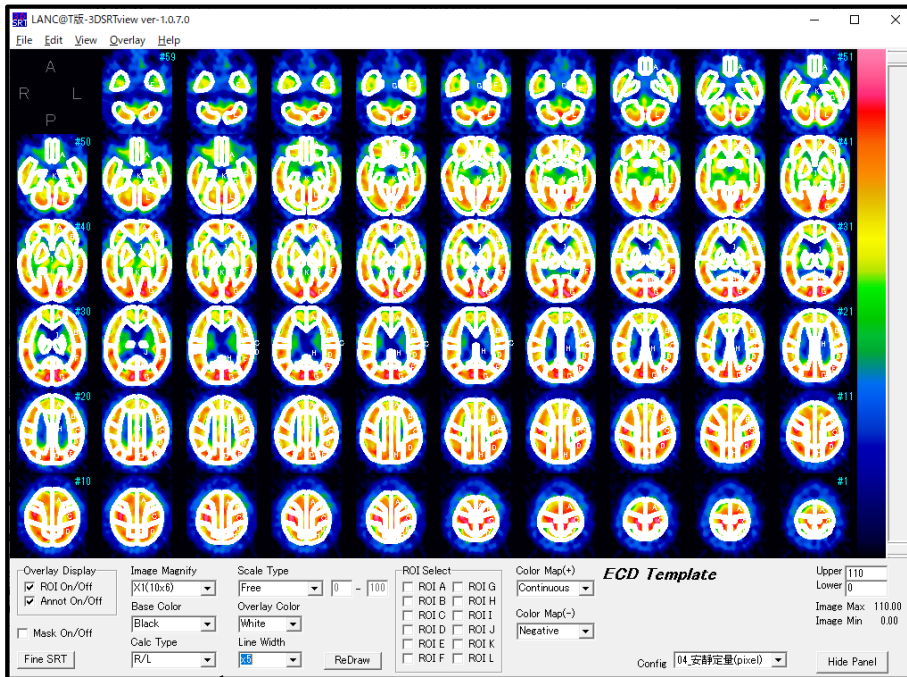
Q17 (New) 3DSRTviewにおいて、OverlayプルダウンメニューからROIの太さを変更する事が出来ない。

A17

3DSRTviewの不具合になります。コントロールパネルから太さを変更して下さい。



(変更できない：Overlayメニューから)



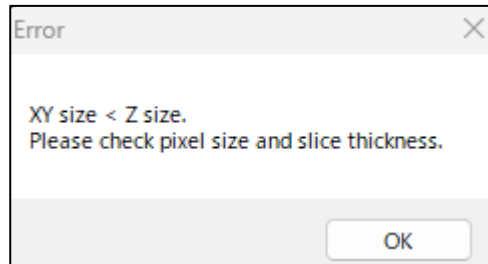
(変更可：コントロールパネルから)

## Amygo ニューロ (V1.0.0,V1.0.1) FAQ

Q.18 Amygo ニューロでアミヴィッド画像を読み込むと特定の機器で " xy size<z size.

Please check pixel size and slice thickness."のメッセージが表示され解析できない。35

- Q.18 Amygo ニューロでアミヴィッド画像を読み込むと特定の機器で ” xy size<z size. Please check pixel size and slice thickness.” のメッセージが表示され解析できない。  
(図 1)



(図 1 エラーメッセージ)

#### A.18

Z 方向の視野が XY 方向の視野より大きいデータは、スライス厚の情報を間違っ  
て認識している可能性があるため、解析に進めない仕様になっている為です。スライ  
ス厚が正しい場合は、LANC@T にデータを読み込む際にスライス数を減らして、xy  
の視野より z の視野の方が小さくなるように調整してください。

#### スライス数を減らす方法

処理機側で再度フレーム数を調整してデータを取り込んでください。

- ① エラーが出るデータをあらかじめ LANC@T から削除してください。
- ② 処理機側でフレーム数を減らしてから再度 LANC@T に取り込んでください。
- ③ Amygo ニューロを実行し現象を確認してください。

処理機でフレーム数の調整が行えない場合は、下記の方法を試してください。

- ① LANC@T からエラーが出るデータをあらかじめ削除してください。
- ② データを取り込む際に、フォルダ内の連続するファイル名の最初又は、最  
後の数フレームをフォルダ内から削除して LANC@T に取り込んでください。  
(次ページ補足資料参照)
- ③ Amygo ニューロを実行し現象を確認してください。

(補足資料)

xy の視野=マトリックス×ピクセルサイズ(mm)、z の視野=フレーム数×スライス厚(mm)を求める方法

- LANC@T のデータリスト画面と edit 画面から画像の情報を得る

### LANC@T データリスト画面

| ID | Name | Age  | Sex | Modality | Study | Series      | Date | Time       | ImageID  | Matrix  | Frame | ImageType     | sv.Da | Edit |
|----|------|------|-----|----------|-------|-------------|------|------------|----------|---------|-------|---------------|-------|------|
| 1  | Demo | Demo | 86y | M        | PT    | Florbetapir | TEST | 2019/09/12 | 11:20:42 | 168*168 | 83    | RIGNAL#PRIMAR |       | ?    |

| Matrix  | Frame | ImageType     |
|---------|-------|---------------|
| 168*168 | 83    | RIGNAL#PRIMAR |

edit 画面

XY のマトリックス

Z のフレーム数

|             |                  |               |
|-------------|------------------|---------------|
| [0020,0010] | StudyID          |               |
| [0020,0011] | SeriesNumber     | 4             |
| [0020,0013] | InstanceNumber   | 1             |
| [0020,0037] | ImageOrientation | 1#0#0#0#1#0   |
| [0020,4000] | ImageComments    | CT_rec_FOV300 |
| [0028,0008] | NumberOfFrames   |               |
| [0028,0010] | Rows             | 168           |
| [0028,0011] | Columns          | 168           |
| [0028,0030] | Y Pixel ※        | 2.03642       |
| [0028,0030] | X Pixel ※        | 2.03642       |

XY のピクセルサイズ

|             |                          |         |
|-------------|--------------------------|---------|
| [0010,21B0] | AdditionalPatientHistory |         |
| [0010,4000] | PatientComments          |         |
| [0010,0020] | PatientsSize             |         |
| [0010,0030] | PatientsWeight           |         |
| [0018,0015] | BodyPartExamined         |         |
| [0018,0050] | SliceThickness ※         | 2       |
| [0018,0080] |                          |         |
| [0018,1030] |                          |         |
| [0018,1140] |                          |         |
| [0018,1142] | RadialPosition           |         |
| [0018,1143] | ScanArc ※                |         |
| [0018,1242] | ActualFrameDuration      | 1200000 |

Z のスライス厚

- ① 対象のデータを選択してからメイン画面の Matrix と Frame の欄の数値をメモする。
- ② Edit 画面の[0028,0030]の X(Y)Pixel の数値をメモする。(ピクセルサイズ)
- ③ [0018,0050]の Slice Thickness(スライス厚)の数値をメモする、
- ④ マトリックス × ピクセルサイズから XY の視野を求める。
- ⑤ フレーム数 × スライス厚から Z の視野を求める
- ⑥ XY の視野 > Z の視野になるようにフレーム数を調整する。
- ⑦ 残ったフレームを LANCA@T にインポートする。
- ⑧ 解析できるか確認する。

## **(New)** AMYclz ニューロ (V1.0.0,V1.0.1) FAQ

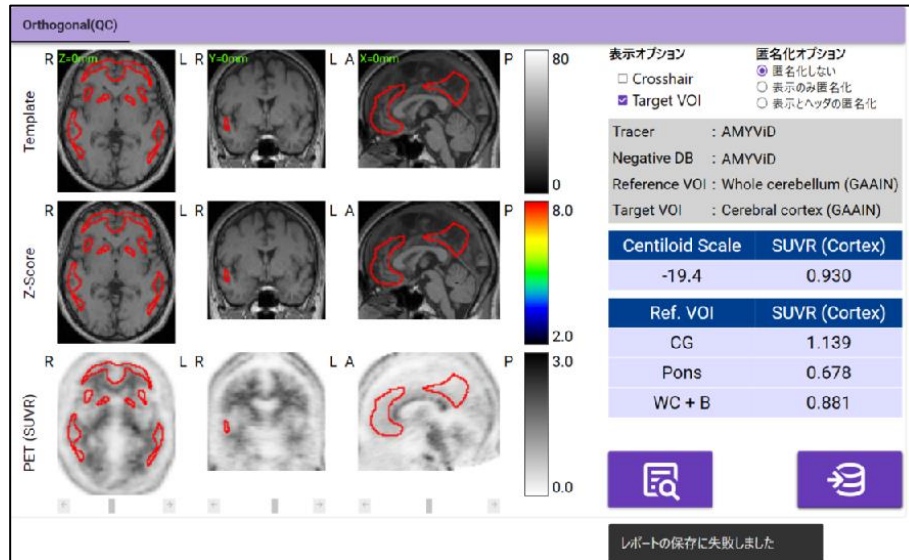
Q.19 **(New)** AMYclz ニューロのレポートが保存できない。 ..... 38

Q.19 (New) AMYclz ニューロのレポートが保存できない。

A.19

[現象]

- AMYclz ニューロ解析後、結果画面からレポートを保存しようとする、「レポートの保存に失敗しました」と表示され、保存できない。



(エラーメッセージ)

- この現象が発生した場合、ログファイルに以下のエラーが記録されているか確認してください。

[2024-xx-xx xx:xx:4xx.361] [ERROR] - System.ArgumentException: ターゲット配列の長さが足りません。destIndex、長さ、および配列の最小値を確認してください。

※ログファイル場所(既定インストール先では): C:\FRI\LANC@Tprog\AMYclz\_neuro\logs

[原因]

AMYclz ニューロのレポート保存機能は患者名 (PatientsName) を使用しています。このフィールドには半角英数字で 64 文字までの制限(※)があり、この長さを超えるとエラーが発生し、レポートが保存できなくなります。(※「漢字」や「かな」のような全角文字を使用すると、64 文字未満でも文字数制限を超える場合があります。)

## [対処法]

LANC@T 上で該当の患者を選択し、患者名 (PatientsName) のフィールドについて、Edit ボタンを押して、半角英数字で 64 文字以内に収まるように編集し、Save してください。

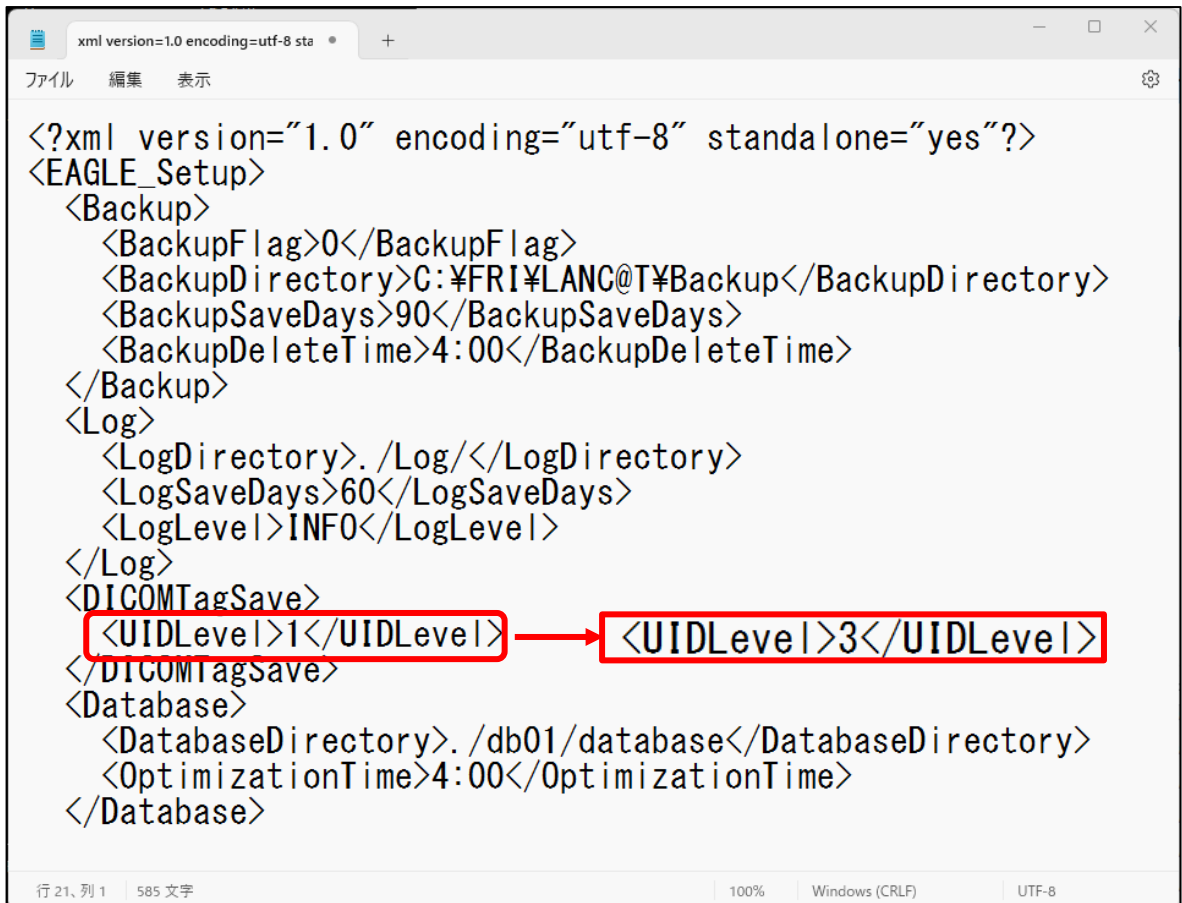
ただし、患者名を編集する前に、一度だけ LANC@T の設定を変更する必要があります。以下の手順を実施してください。

## 【LANC@T の設定について】

注意①: LANC@T を終了した状態で行ってください。

注意②: この手順(以下の 1)と 2))は一度だけ実施してください。

- 1) LANC@T のインストール先フォルダ(既定のインストール先: C:\FRI\LANC@T)を開き、LANCAT\_Setup.xml をメモ帳等で開きます。



```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" standalone="yes"?>
<EAGLE_Setup>
  <Backup>
    <BackupFlag>0</BackupFlag>
    <BackupDirectory>C:\FRI\LANC@T\Backup</BackupDirectory>
    <BackupSaveDays>90</BackupSaveDays>
    <BackupDeleteTime>4:00</BackupDeleteTime>
  </Backup>
  <Log>
    <LogDirectory>./Log</LogDirectory>
    <LogSaveDays>60</LogSaveDays>
    <LogLevel>INFO</LogLevel>
  </Log>
  <DICOMTagSave>
    <UIDLevel>1</UIDLevel>
  </DICOMTagSave>
  <Database>
    <DatabaseDirectory>./db01/database</DatabaseDirectory>
    <OptimizationTime>4:00</OptimizationTime>
  </Database>
</EAGLE_Setup>
```

(図 LANCAT\_Setup.xml)

- 2) 15 行目の<UIDLevel>1</UIDLevel>の 1 を 3 に書き換え、上書き保存します。

※UID レベルを 1 から 3 に変更することで、名前を変更しても同じ UID で保存されます。

(LANC@T 上での患者名の編集)

2) Edit 画面の「PatientsName」のフィールドを選択して Edit ボタンを押下してください。

|   |  |
|---|--|
| [0008,0050] AccessionNumber ※             |  |
| [0008,0060] Modality ※                    | PT   |
| [0008,0090] ReferringPhysiciansName       |  |
| [0008,1030] StudyDescription ※            | PET <sup>36</sup> Florbetapir_impact (Adult)                       |
| [0008,103E] SeriesDescription ※           | Impact_0-1200 (AC)   |
| [0008,1050] PerformingPhysiciansName      |  |
| [0008,1060] NameOfPhysiciansReadingStudy  |  |
| [0008,1070] OperatorsName                 |  |
| [0008,1080] AdmittingDiagnosesDescription |  |
| [0010,0010] PatientsName ※                | 010203040506070809101112131415161718192021222324252627282930313233 |
| [0010,0020] PatientsID ※                  | AMY_sample   |
| [0010,0030] BirthDate ※                   | 19701122   |
| [0010,0032] PatientsBirthTime             |  |
| [0010,0040] PatientsSex ※                 | M  |
| [0010,1000] OtherPatientIDs               |  |
| [0010,1001] OtherPatientNames             |  |
| [0010,1010] PatientsAge ※                 | 048Y   |
| [0010,1011] PatientsAgeUnit               |  |

(図 LANC@T Edit 画面)

3) 患者名を変更してください。

|   |  |
|---|--|
| [0008,0050] AccessionNumber ※             |  |
| [0008,0060] Modality ※                    | PT   |
| [0008,0090] ReferringPhysiciansName       |  |
| [0008,1030] StudyDescription ※            | PET <sup>36</sup> Florbetapir_impact (Adult) |
| [0008,103E] SeriesDescription ※           | Impact_0-1200 (AC)                           |
| [0008,1050] PerformingPhysiciansName      |  |
| [0008,1060] NameOfPhysiciansReadingStudy  |  |
| [0008,1070] OperatorsName                 |  |
| [0008,1080] AdmittingDiagnosesDescription |  |
| [0010,0010] PatientsName ※                | PDR  |
| [0010,0020] PatientsID ※                  | AMY_sample                                   |
| [0010,0030] BirthDate ※                   | 19701122                                     |
| [0010,0032] PatientsBirthTime             |  |
| [0010,0040] PatientsSex ※                 | M  |
| [0010,1000] OtherPatientIDs               |  |
| [0010,1001] OtherPatientNames             |  |
| [0010,1010] PatientsAge ※                 | 048Y   |
| [0010,1011] PatientsAgeUnit               |  |

(図 LANC@T Edit→Save 画面)

変更後、再度解析を行ってください。



## カーディオレポ (V1.2.0) FAQ

- Q20 入力データの短軸像でスライス枚数が、Rest と Stress で異なる場合に、  
cardioMUSk 機能<sup>\*</sup>でフィルター処理を行うと「不正な浮動小数点演算命令」のエラー  
が発生する場合があります。.....42

Q20 入力データの短軸像でスライス枚数が、Rest と Stress で異なる場合に、cardioMUSk 機能※でフィルター処理を行うと「不正な浮動小数点演算命令」のエラーが発生する場合があります。

A20

Rest 画像のフィルター処理における、メモリへの不正なアクセス等のバグです。

《注意》

- Rest と Stress の枚数が異なっていても、上記エラーが発生しない場合がありますが、内部的な処理が完了せず問題が発生する場合があります。
- cardioMUSk 機能を使用していない場合、問題は発生しません。
- スライス枚数が Rest と Stress で同じ場合、cardioMUSk 機能は、正しく処理されます。
- 処理機のワークフロー内で cardioMUSk の処理を行った場合、問題は発生しません。

以下のいずれかの方法で対応が可能です。

方法 1) 処理機で再構成する際にスライス枚数が Rest と Stress で同じになるように再処理してください。

方法 2) PDR 製汎用画像処理プログラム DRIP 等を使用して、対象データのスライス枚数を調整してください。

DRIP のプログラムは日本放射線技術学会の HP からダウンロードできます。

(<http://nm.jsrt.or.jp/blog.html>)

使用法については当社担当 MR にお問い合わせください。

※「cardioMUSk 機能」とは、画像上の心外集積を除去する等の目的で実施する、マスク処理、平滑化処理のことです。

## **(New)** smartMIBG ハート (V3.1.0,V3.1.1) FAQ

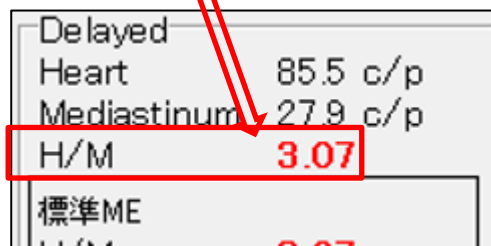
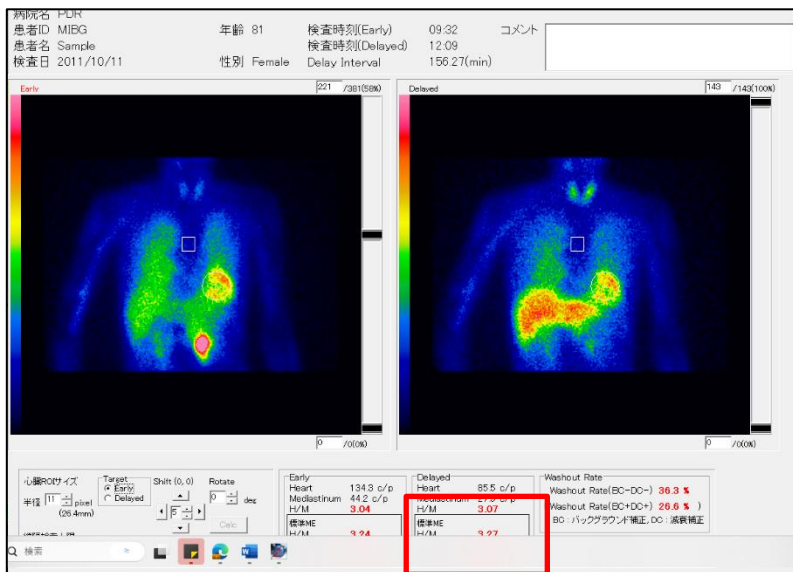
- Q.21 **(New)** 特定の患者で smartMIBG-HF を起動しても自動で H/M が反映されない。 44
- Q.22 **(New)** 「モジュール違反」のエラーが発生し解析できないことがある。..... 46
- Q.23 **(New)** smartMIBG-HF においてある条件下で、H/M 補正機能をオフにしているにもかかわらず、起動時に補正後の値が表示される不具合が発生します ..... 47

Q.21 (New) 特定の患者で smartMIBG-HF を起動しても自動で H/M が反映されない。  
また%/5years が表示されない。

A.21

後期像の HMR が 3.05～3.09 の場合に限り smartMIBG-HF に値が渡らない現象が発生します。ご不便をお掛けしますが、下記の方法で解析を行って下さい。

1) smartMIBG 解析を行い H/M を算出する。



(図 1 Delay の H/M 値)

2) smartMIBG-HF を起動する

File Option Help

### 5-year mortality risk for heart failure

HpName

ID  Study Date

Name

Gender  Male  Female

NYHA Class  1-2  3-4

HMR

Age

LVEF(%)

correct HMR

LMEGP

Standard LE corrected value x.x

Mortality(%)

90  
80  
70

● Patient  
— NYHA  
— NYHA

(図2 smartMIBG-HFの起動画面)

- 3) HMRの欄がsmartMIBGで求めた値が引き継がれなく空欄になっています。リストボックスから適切なHMRを選択してください。(今回の場合は3.1≤)

Q.22 (New) 「モジュール違反」のエラーが発生し解析できないことがある。

A22

対応方法

LANC@T から匿名化機能を On(実際には匿名化しない)にしてエクスポートして、インポートしなおしてください。

手順

- 1) エラーが発生するデータを LANC@T 上で選択して、エクスポートアイコンをクリックします。
- 2) 「エクスポート時に匿名化する」にチェックを入れ、項目設定ボタンを押し、すべてのチェックを外して OK ボタンを押してください。

エクスポート設定

エクスポート設定

エクスポート時に匿名化する 項目設定

ログファイルを作成する

エクスポート時にスペースをアンダーバーに変換する

デフォルトのエクスポート先

C:\%export

エクスポートルールを使用する

フォルダ

ファイル名

\$pname\$

命名ルール(下記の情報が使用できます)

|                   |                  |
|-------------------|------------------|
| PatientsName      | : \$pname\$      |
| PatientsID        | : \$ptid\$       |
| PatientsSex       | : \$ptsex\$      |
| PatientsAge       | : \$ptage\$      |
| StudyDescription  | : \$studydesc\$  |
| StudyDate         | : \$studydate\$  |
| StudyTime         | : \$studytime\$  |
| SeriesDescription | : \$seriesdesc\$ |
| SeriesDate        | : \$seriesdate\$ |
| SeriesTime        | : \$seriestime\$ |
| Modality          | : \$modality\$   |

OK キャンセル

項目設定

PatientsName  文字列 + 連番

PatientsID  文字列 + 連番

PatientsSex  PatientsSexを"O"に変換

PatientsAge  PatientsAgeを削除

BirthDate  BirthDateを削除

\* 同一患者のデータであっても、Studyが異なる場合は新しい連番が付加され、別の文字列で匿名化されます

OK キャンセル

- 3) エクスポート先やエクスポートルールを適宜変更して、データをエクスポートしてください。
- 4) エクスポートしたデータを LANC@T にドラッグ&ドロップして取り込んでください。

Q.23 (New) smartMIBG-HF においてある条件下で、H/M 補正機能をオフにしているにもかかわらず、起動時に補正後の値が表示される不具合が発生する

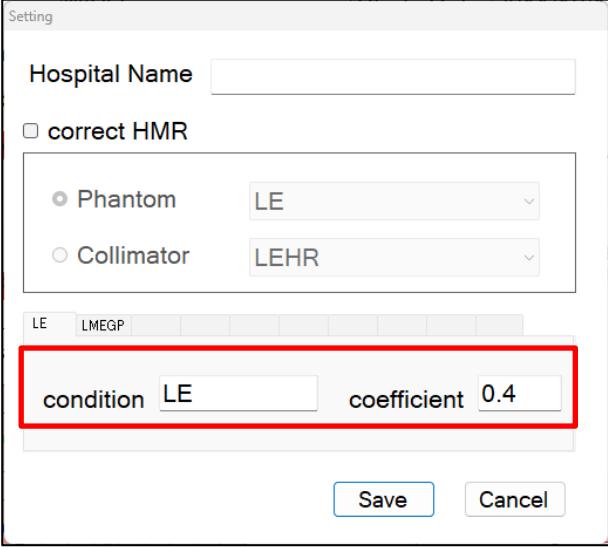
A23

[現象]

ある条件下で、H/M 補正機能をオフにしているにもかかわらず、起動時に補正後の値が表示される不具合が発生します。

以下の 2 つの条件を満たした場合、補正機能をオフにしても補正後の値が表示されません。

条件1) 設定画面に補正係数が入力されている。



Setting

Hospital Name

correct HMR

Phantom

Collimator

LE LMEGP

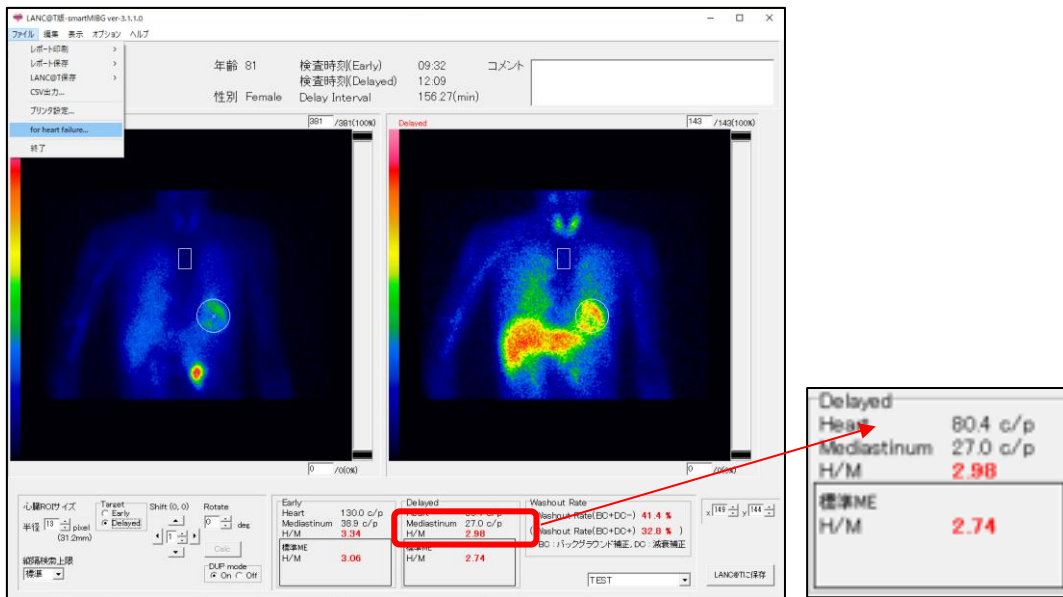
condition  coefficient

Save Cancel

(図 smartMIBG-HF 設定画面)

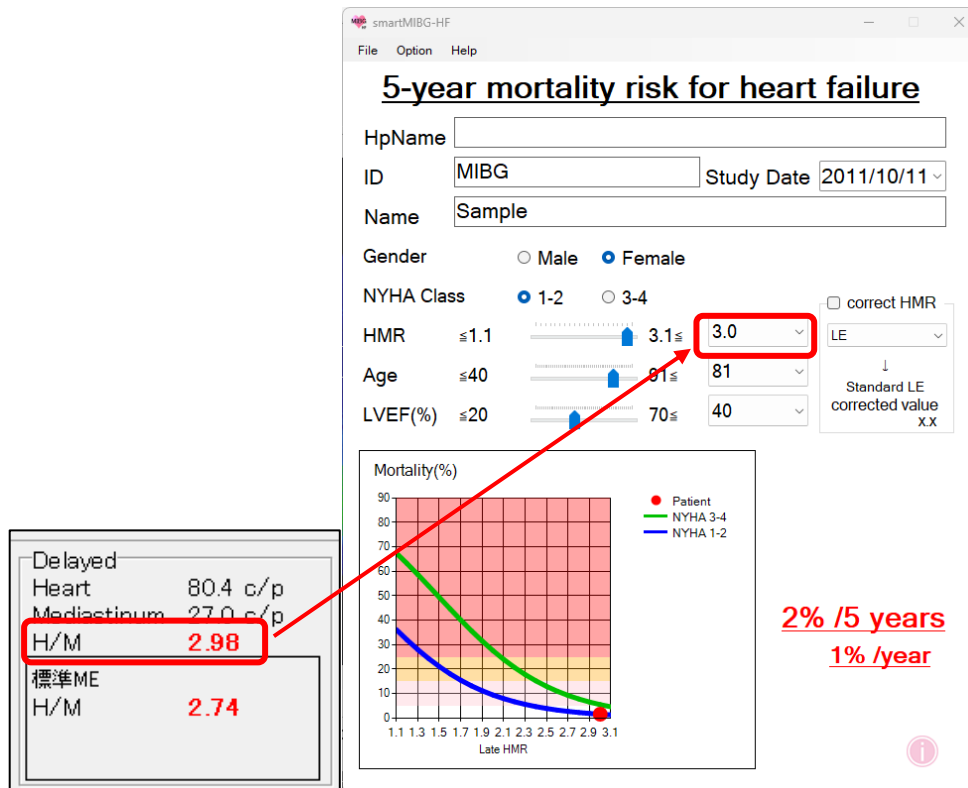
条件2) smartMIBG で算出された後期像の H/M を、設定画面で選択された補正係数で補正した際に、1.1 未満、または 3.1 より大きくなる場合。

(例)



(図 smartMIBG 後期像の H/M 比算出)

- ① smartMIBG で求めた後期像の H/M(補正なし)の値を小数点第 2 位で四捨五入し、smartMIBG-HF に反映させます。(例:2.98→3.0)



(図 smartMIBG-HF)



Setting

Hospital Name

correct HMR

Phantom TEST

Collimator LEHR

TEST TEST2

condition TEST coefficient 0.4

Save Cancel

(図 smartMIBG-HF 設定)

## ② ソフトに実装されている補正式は

「補正後の値 =  $(H/M - 1) \times (0.55 / \text{補正係数}) + 1$ 」となります。

例:  $H/M = 2.98$ 、補正係数 = 0.4 の場合

$$(2.98 - 1) \times (0.55 / 0.4) + 1 = 3.72$$

これは範囲の上限である 3.1 を超えてしまうため、補正しても 3.1 を超えない 2.4 にセットされます。

補正のチェックが付いていないにもかかわらず、補正された値がセットされてしまいます。

**5-year mortality risk for heart failure**

HpName:

ID:  Study Date:

Name:

Gender:  Male  Female

**NYHA Class**:  1-2  3-4

HMR:  (range: ≤1.1 to 3.1)

Age:  (range: ≤40 to 91)

**LVEF(%)**:  (range: ≤20 to 70)

correct HMR

TEST

Standard LE corrected value: xx

**Mortality(%)**

Legend: ● Patient, — NYHA 3-4, — NYHA 1-2

X-axis: Late HMR (1.1 to 3.1)

Y-axis: Mortality(%) (0 to 90)

xx% /5 years  
xx% /year

補正のチェックは付いていないが補正された値がセットされてしまう

「対処方法」

- 補正機能をオンにして初めから解析を行ってください。

**(New) LANC@T (V2.9.x.x) FAQ**

- Q24 PDRパッケージに付属される LANC@T v2.9.1.1, および医療機器プログラムが  
Windows 7 以下の PC で動作しない。..... 52
- Q25 ボーンナビ BSI V2.2.0 へバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の ”エクスポート機能” を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。..... 53
- Q26 バージョンアップ後、非 DICOM データが取り込めなくなった。..... 55
- Q27 **(New)** LANC@T V2.9.3 で DICOM 通信が行えない。..... 56

Q24 PDRパッケージに付属される LANC@T v2.9.1.1, および医療機器プログラムが Windows 7 以下の PC で動作しない。

#### A.24

最新の医療機器プログラム(「ボーンナビ BSI 2.2.0」等)及び LANC@T(V2.9.1.1)の推奨 OS は Windows10 と 11 になります。

LANC@T(V2.9.1.1)は、“Microsoft .NET Framework 4”(以下.NET4)を利用していますが、Windows10, 11 では、標準で“.NET 4”がインストールされ、有効化されています。ただし、この機能が有効化されていない場合等は問題が発生しますので、ご施設の PC 環境をご確認ください。なお、動作保証対象外の環境ですが、Windows7 以下の旧 OS 上で動作させる場合には、“.NET4”のインストールが必要となります。具体的な方法につきましては、Microsoft の情報 WEB ページもしくは当社担当 MR までお問い合わせください。

Microsoft の情報 WEB ページ

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=17718>

Q25 ボーンナビ BSI V2.2.0 へバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の ”エクスポート機能” を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。

A.25

LANC@T から DICOM データをエクスポートした際に、DICOM データの保存フォルダ/ファイル名に「空白」が含まれる場合に共有フォルダ経由でインポートできない処理機があります（[本資料の「ボーンナビ BSI FAQ」](#)と同じ現象についての説明です）。

**方法1-3のいずれかで対応をお願いします。**

方法1) LANC@T のエクスポートルールを使用する場合、フォルダ名/ファイル名には \$ptid\$ 等の空白のない情報を使用してください。

エクスポート設定

エクスポート設定

エクスポート時に匿名化する 項目設定

ログファイルを作成する

デフォルトのエクスポート先

D:\temp\export ...

エクスポートルールを使用する

フォルダ

\_\_\_\_\_

ファイル名

\$ptid\$

命名ルール(下記の情報が使用できます)

|                   |                |
|-------------------|----------------|
| PatientsName      | \$ptname\$     |
| PatientsID        | \$ptid\$       |
| PatientsSex       | \$psex\$       |
| PatientsAge       | \$ptage\$      |
| StudyDescription  | \$studydesc\$  |
| StudyDate         | \$studydate\$  |
| StudyTime         | \$studytime\$  |
| SeriesDescription | \$seriesdesc\$ |
| SeriesDate        | \$seriesdate\$ |
| SeriesTime        | \$seriestime\$ |
| Modality          | \$modality\$   |

OK キャンセル

方法2) エクスポート時もしくはエクスポート後に、保存フォルダ名/ファイル名から空白を削除して下さい。

方法3) 共有フォルダを介さず直接送信する方法(DICOM 通信)をご検討ください。

※この現象に対応するため、空白をアンダーバー「\_」に変換する機能を追加した対応版 LANC@T をご用意しております。当社担当 MR までお問い合わせください。

Q26 バージョンアップ後、非 DICOM データが取り込めなくなった。

A.26

本現象は、LANC@T (V 2.9.1.0 及び V2.9.1.1)において、DICOM 形式とは異なる 非 DICOM (non-DICOM) の一部形式※のデータを取り込めないという問題です。以下のようなエラーメッセージが表示され、LANC@T に取り込むことができません。



DICOM 形式のデータをご利用の施設では、この現象は発生しません。

なお、LANC@T (V 2.9.1.0 及び V2.9.1.1)に含まれている、非 DICOM データの入出力を行うプログラム(FileIO.dll)が原因と判明しており、この問題に対応した修正プログラムを用意しております。問題が発生する場合は、当社担当 MR までお問い合わせください。

※本現象が発生する核医学画像処理機についての情報は、担当 MR までお問い合わせください。

Q27 (New) LANC@T V2.9.3 で DICOM 通信が行えない。

(LANC@TService が正しく登録できない)

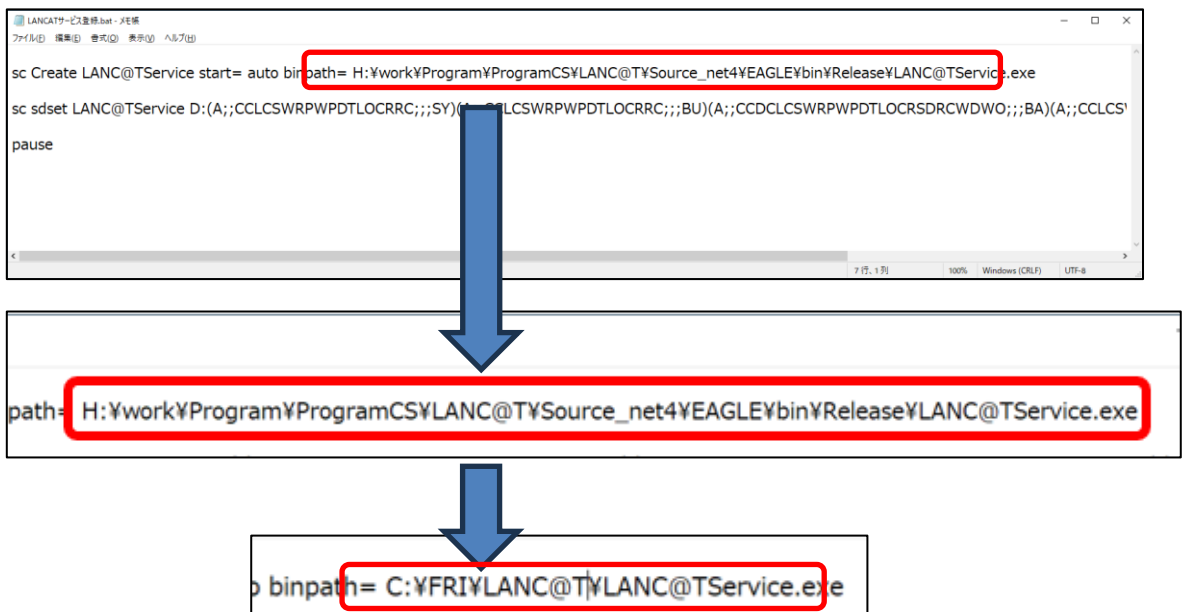
A27

「LANCAT サービス登録.bat」の内容に不備があった為、正しく登録が行えません。ご不便をお掛けしますが、以下の方法1又は2のいずれかで対応をお願いします。

方法1) 「LANCAT サービス登録.bat」の内容を書き換える方法。

- 1) LANC@T のインストール先(デフォルトでは C:\FRI\LANC@T)にある「LANCAT サービス登録.bat」をメモ帳等で開きます。
- 2) 2 行目の  
「H:\work\Program\ProgramCS\LANC@T\Source\_net4\EAGLE\bin\Release\LANC@TService.exe」の部分

下図赤枠を、実際の LANC@TService.exe がある場所書き換え、上書き保存します。



- 3) 「LANCAT サービス登録.bat」を右クリックして「管理者として実行」し、PC を再起動してください。

方法2) 旧バージョンの「LANCAT サービス登録.bat」を使用する方法

手順

- 1) 旧バージョンの LANC@T (v2.9.2.1 以前) に添付されている「LANCAT サービス登録.bat」をコピーし、インストール先(デフォルトでは C:\FRI\LANC@T)に上書きしてご使用ください。



## (New)脆弱性に関する情報

|   |    |
|---|----|
| (New)Info1 LANC@T で使用している OSS(オープンソースソフトウェア)DCMTK(3.6.0)の脆弱性に関する情報..... | 58 |
| (New)Info2 Microsoft に関する重要なセキュリティ情報.....                               | 59 |

**(New)Info1** LANC@T で使用している OSS(オープンソースソフトウェア)DCMTK(3.6.0)  
の脆弱性に関する情報

1. 当社医療機器プログラムにおける DCMTK(3.6.0)の使用状況。  
以下の製品が対象となります：  
医療機器プログラム付属品 LANC@T(v2.8.2、v2.9.1、v2.9.2、v2.9.3、v2.9.4)
2. 脆弱性情報の確認方法最新の脆弱性情報については、以下のデータベースで  
ご確認ください：

[DCMTK の情報入手先](#)

- JVNDB-2022-012414,012415:LANC@T v2.9.3 で対応済。
- JVNDB-2022-022170:LANCA@T で使用している DCMTK は対象外です
- JVNDB-2013-006586:脆弱性が含まれる機能を LANC@T では使っていないため対象外。
- その他の脆弱性:LANC@T への影響を調査中(2024年12月現在)。

**(New)Info2** Microsoft に関する重要なセキュリティ情報

1. 当社医療機器プログラムにおける Microsoft 製品の使用状況

以下の製品が対象となります：

- smartMIBG ハート(全バージョン)
- eZIS ニューロ(全バージョン)
- AMYclz ニューロ(全バージョン)
- 医療機器プログラム付属品 LANC@T(全バージョン)

2. 動作環境に関する注意事項

上記製品は Microsoft .NET Framework を利用しています。セキュリティ対策のため、以下の点にご注意ください：

- 製品を使用する PC には、Microsoft .NET Framework がインストールされている必要があります。
- 当社プログラムは開発時に .NET Framework V4.x を使用していますが、セキュリティ上の脆弱性は実際に製品がインストールされる PC の .NET Framework のバージョンに依存します。
- Windows Update を定期的に適用することを推奨します。

- ✓ これにより、Microsoft .NET Framework を含む最新のセキュリティパッチが適用されます。
- ✓ 特に重要なセキュリティ更新プログラムは速やかに適用してください。

3. 脆弱性情報の確認方法

最新の脆弱性情報については、以下のデータベースでご確認ください：

- [JVN iPedia - 脆弱性対策情報データベース](#)
- [Microsoft 社セキュリティ更新プログラムガイド](#)